

[論文]

## 私訳と訳注 エゼキエル書 (2) 12-24 章

### 北 博

凡例

( ) 訳者による補足。

[ ] 代名詞の指示語。

使用文献とその略語, その他の略語については, 末尾に記載。

#### [12 章]

(1 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり, こう言われた。

(2 節) 人の子よ, あなたは反逆の家の只中に住んでいる。彼らには見るための目はあるが, 彼らは見ることをせず, 彼らには聞くための耳はあるが, 彼らは聞くことをしない。なぜなら彼らは, 反逆の家なのだから。

(3 節) そして汝, 人の子よ, 自分のために捕囚の荷繕いをして, 彼らの目の前で昼日中, 捕囚へと旅立て。そしてあなたは彼らの目の前で, あなたの場所から別の場所に捕囚へと旅立つのだ。おそらく彼らは, 見ることであろう。なぜなら彼らは, 反逆の家なのだから。

(4 節) そしてあなたは, あなたの荷物を捕囚の荷物のように彼らの目の前で昼日中持って行くのだ。そして汝よ, あなたは捕囚民の旅立ちのように彼らの目の前で夕刻に出ていくのだ。

(5 節) あなたは彼らの目の前で壁に穴を穿て。そしてあなたは, そこに (荷物を) 持って行く<sup>1</sup>のだ。

(6 節) あなたは彼らの目の前で (荷物を) 肩に荷い, 闇の中持っていく<sup>2</sup>のだ。あなたは自分の顔を覆い隠し, この地を見ないようにせよ。なぜならわたしは, あなたをイス

<sup>1</sup> BHS の修正案によれば「出て行く」。この場合, 訳者による (荷物を) の補足は不要となる。

<sup>2</sup> BHS の修正案によれば「出て行く」。

ラエルの家に対する前触れとしたからだ。

(7 節) そしてわたしはその通りに、わたしが命じられた通りに行かない、わたしの荷物を捕囚の荷物のように昼日中持って行き、夕刻には自分で、手で壁に穴を穿った。闇の中、わたしは（荷物を）持って行った<sup>3</sup>。わたしは彼らの目の前で（荷物を）肩の上に荷った。

(8 節) そして朝にヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(9 節) 人の子よ、イスラエルの家、反逆の家は、あなたに向かって言ったのではないか、あなたは何をしているのか、と。

(10 節) 彼らに対して言え。主なるヤハウエはこう言われる。君主は、エルサレムでこの重荷<sup>4</sup>。そして、その中にいる<sup>5</sup>イスラエルの全家。

(11 節) 言え。わたしはあなた達の前触れである、と。私が行なったそのように、彼らに対して行なわれよう。彼らは捕囚民として、捕われて行くであろう。

(12 節) そして彼らの只中にいる君主は、闇の中で肩の上に（荷物を）荷い、出て行くであろう。そこから持ち運ぶために、彼らは壁に穴を穿つであろう<sup>6</sup>。彼は自分の顔を覆い隠すであろう。なぜなら彼は、この地を彼自身、目で見ることがないからである<sup>7</sup>。

(13 節) そしてわたしは彼の上にわが網を広げ、彼はわが罫に捕えられる。そしてわたしは、彼をカルデア人の地であるバベルへと連れて行く。そして彼はそれ<sup>8</sup>を見ることなく、そこで死ぬであろう。

(14 節) そして彼の周囲にいる者達、彼の助け<sup>9</sup>、そして彼のすべての軍勢、そのすべてを、わたしは四方に<sup>10</sup>追い散らし、彼らの後ろで剣を抜くであろう。

(15 節) そしてわたしが彼らを諸国民の間に散らし、彼らを諸国の間に追い散らす時、彼らはわたしがヤハウエであることを知るのだ。

<sup>3</sup> BHS の修正案によれば「わたしは出て行った」。

<sup>4</sup> この一文は、意味不詳。70 人訳は「エルサレムの首長と指導者」、ウルガタは「エルサレムの指導者への重荷」と訳している。BHS の修正案に従って読み替えると、「君主に対する託宣がエルサレムで（あった）」となる。

<sup>5</sup> この部分、接尾辞を男性複数形から女性単数形に読み替えて、「彼女の〔エルサレムの〕中にいる」としないと意味をなさない。

<sup>6</sup> この文は、BHS の修正案に従って読み替えると「彼はそこから出て行くために、壁に穴を穿つであろう」となる。文脈上は、確かにこの方が理解し易くなる。

<sup>7</sup> この文を BHS の修正案に従って読み替えると、「それは彼が目で見られないようにするためである」となる。

<sup>8</sup> 前節の「この地」を指す。

<sup>9</sup> 訳文はケレーによる。BHS の読み替え案によればこの部分は「彼を助ける者達」となり、ツインマーリはこの部分を書記の誤りであるとして、この読み替え案に賛成する。

<sup>10</sup> 直訳「すべての風に向かって」。

(16 節) そしてわたしは、彼らのうち少数の男達を、剣から、飢饉から、そして疫病から、生き延びさせる。それは彼らが自分達のすべての忌み嫌うべきことを、彼らが入って行く諸国民の間で語り伝えるためである。そして彼らは、わたしがヤハウエであることを知るのだ。

(17 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(18 節) 人の子よ、あなたは自分のパンを動揺のうちに食らい、自分の水を戦慄のうちに、そして不安のうちに飲むのだ。

(19 節) そしてあなたは国の民に言うのだ。エルサレムの住民達について<sup>11</sup>、イスラエルの大地に対して<sup>12</sup>、主なるヤハウエはこう言われる。彼らは自分のパンを不安のうちに食らい、自分の水を恐怖のうちに飲むであろう。それは、その地<sup>13</sup>がその豊かさ<sup>14</sup>から、そこにいる<sup>15</sup>すべての住民達の暴虐のために荒れ果てるからである。

(20 節) そして人々の住む町々は廃墟となり、地は荒廃するであろう。そしてあなた達は、わたしがヤハウエであることを知るのだ。

(21 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(22 節) 人の子よ、イスラエルの大地に対して言っている、「日々は延び、すべての幻は消滅する」<sup>16</sup>というこの諺は、あなた達にとって何なのか。

(23 節) それゆえ彼らに言え、主なるヤハウエはこう言われる。わたしはこの諺をやめさせ、イスラエルでは再びその諺を語ることはない。むしろ彼らに、「日々とすべての幻の言葉<sup>17</sup>は近い」<sup>18</sup>と語れ。

(24 節) まことに、すべての空しい幻と滑らかな<sup>19</sup>神託がイスラエルの家の只中に再びあることはないであろう<sup>20</sup>。

<sup>11</sup> 別訳「に対して」。

<sup>12</sup> 70 人訳はこの部分を、「イスラエルの地の上のエルサレムの住民達に」と訳す。

<sup>13</sup> 直訳「彼女の地」いくつかの写本と一つの印刷本は、「彼らの地」。その方が文脈に合うが、レニングラード写本のままなら「彼女の地」は「エルサレムの地」ということになる。

<sup>14</sup> 直訳「彼女の〔エルサレムの〕豊かさ」。

<sup>15</sup> 直訳「彼女〔エルサレム〕の中の」。

<sup>16</sup> 鍵括弧は訳者の補足。この部分を 70 人訳は「日々は遠く幻は消え去った」と訳している。

<sup>17</sup> あるいは「出来事」。

<sup>18</sup> 鍵括弧は訳者の補足。BHS の読み替え案に従えば、この部分は「日々は近く、すべての幻は来たりつつある」または「日々は近く、すべての幻は強まる（広がる）」となる。

<sup>19</sup> 意識すれば「へつらいの」。

<sup>20</sup> 「幻」と「神託」をコンストラクト形からいくつかの写本に従ってアブストラクト形に修正すると、この節の訳文は「まことに、イスラエルの家の只中ですべての幻は再び空しくはならず、神託は滑らか（意識すれば「へつらい」）にはならないであろう」となる。

(25 節) まことに、わたしヤハウエは、わたしが語る言葉を語り、それは実行される。再び引き延ばされることはないであろう<sup>21</sup>。まことに、あなた達の時代<sup>22</sup>のうちに、反逆の家よ、わたしは言葉<sup>23</sup>を語り、それを実行する。主なるヤハウエの御告げ。

(26 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(27 節) 人の子よ、見よ、イスラエルの家は言っている、彼が見ている幻は遙か後の日々<sup>24</sup>についてのものであり、遠い時期について彼は預言しているのだ、と。

(28 節) それゆえ彼らに言え。主なるヤハウエはこう言われる。わたしのすべての言葉、わたしが語る言葉、それは再び引き延ばされることはなく、実行されるであろう。主なるヤハウエの御告げ。

### [13 章]

(1 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(2 節) 人の子よ、預言しているイスラエルの預言者達に対して預言せよ。そしてあなたは、自分達の心任せの<sup>25</sup> 預言者達に向かって言うのだ<sup>26</sup>。あなた達は、ヤハウエの言葉を聞け。

(3 節) 主なるヤハウエはこう言われる。愚かな預言者達に災いあれ<sup>27</sup>。彼らは自分の霊に従って歩むが、何も見えてはいない。

(4 節) あなたの預言者達は廢墟の狐達のようなものである、イスラエルよ。

(5 節) あなた達はヤハウエの日に戦いに立つために、(城壁の) 破れに上ることも、イスラエルの家のために城壁を築くこともしなかった。

(6 節) 彼らは空しい幻を視、偽りの神託をし、ヤハウエの御告げと言っているが、ヤ

<sup>21</sup> 「引き延ばされない」という動詞の格は女性単数形だが、ここではツインマーリの提言に従い、中性と理解した。ここまでの部分を 70 人訳は、「なぜならわたし、主がこれらのわたしの言葉を語るであろうからである。わたしが語り、わたしが実行し、わたしはもはや引き延ばさないであろう」と訳している。

<sup>22</sup> 直訳「日々」。

<sup>23</sup> あるいは「出来事」。

<sup>24</sup> 直訳「多くの日々」。

<sup>25</sup> 直訳「彼らの心からの」。

<sup>26</sup> ここまでの部分を 70 人訳は、「人の子よ、イスラエルの預言者達に預言せよ。そしてあなたは預言して、彼らに言うのだ」と訳す。しかし、BHS の提案に従ってテキストを修正すれば、この部分は「人の子よ、自分達の心のままに預言している預言者達に対して預言せよ。そしてあなたは言うのだ」となる。

<sup>27</sup> ヘブライ語「ホーイ」。

ハウエは彼らを遣わしていない。しかし彼らは、言葉を実現させる<sup>28</sup>ことを待ち望んでいる。

(7節) あなた達は、ヤハウエの御告げと言いながら、空しい幻を視、偽りの神託を言わなかったか。しかしわたしは語っていない。

(8節) それゆえ主なるヤハウエはこう言われる。あなた達が空しいことを語ったこと、またあなた達が偽りの幻を視たがゆえに。それゆえ見よ、あなた達に(わたしは立ち向かう)。主なるヤハウエの御告げ。

(9節) そして空しい幻を視、偽りの神託をする預言者達の上に、わが手が臨む。わが民の会議に彼らはいなく、イスラエルの家の書に彼らは書き記されず、イスラエルの大地に彼らは入らないであろう。そしてあなた達は、わたしが主なるヤハウエであることを知るのだ。

(10節) 彼らは平和がないのに平和だと言ってわが民を惑わし、彼〔わが民〕が隔壁を築こうとすると、一見よ、彼らを一(彼らは)漆喰でその上塗りをしようとするゆえ、そのゆえにおいて、

(11節) 漆喰で上塗りをしている者達に言え。そしてそれ〔隔壁〕は倒れるであろう。雨があふれ返り、—あなた達よ—電が降り、激しい風が切り裂くであろう。

(12節) そして見よ、壁は倒れる。あなた達は言われまいであろうか、あなた達が塗った上塗りはどこか、と。

(13節) それゆえ主なるヤハウエはこう言われる。そしてわたしは、わが憤りによって激しい風を切り裂かせる。わが怒りによって雨があふれ返り、憤りによって電が滅ぼし尽くすであろう。

(14節) そしてわたしは、あなた達が漆喰で上塗りした壁を引き倒し、それを地に着ける。そしてその土台は顕わにされる。そして(それは)倒れ<sup>29</sup>、その<sup>30</sup>只中であなた達は滅びる。そしてあなた達は、わたしがヤハウエであることを知るのだ。

(15節) そしてわたしは、壁と漆喰でそこに上塗りをする者達へのわが憤りを全うする。そしてわたしはあなた達に言おう、壁はない、そしてそこに上塗りをする者達もいない、と。

<sup>28</sup> 直訳「立てる」。

<sup>29</sup> 動詞の格は女性単数形。文法的にはおかしいが、この文脈では男性名詞の「壁」を主語と解するしかない。

<sup>30</sup> 直訳「彼女の」。前注と同様、この文脈では男性名詞の「壁」を指すと解するしかない。

(16 節) エルサレムに対して預言し、それについて<sup>31</sup> 平和の幻を視るイスラエルの預言者達よ、しかし平和はない。主なるヤハウェの御告げ。

(17 節) そして汝、人の子よ、自分の心のままに<sup>32</sup> 預言しているあなたの民の娘達にあなたの顔を向け、彼女達に対して預言せよ。

(18 節) そしてあなたは言うのだ。主なるヤハウェはこう言われる。すべての手首<sup>33</sup> のために腕輪を編み、すべての背丈の頭のために頭巾を作り、人の命を狙う女達に災いあれ<sup>34</sup>。あなた達はわが民の命を狙い、あなた達の命を保とうとする。

(19 節) そしてあなた達は、幾掴みかの大麦と幾片かのパンのために、わが民に対してわたしを汚し、偽りを聞くわが民にあなた達が偽りを言うことによって、死ぬはずではない者達の命を死に至らしめ、生きるはずではない者達の命を生きながらえさせた。

(20 節) それゆえ主なるヤハウェはこう言われる。見よ、あなた達が飛ぶ女達<sup>35</sup> のためにそこで命を狙っているあなた達の腕輪に対して（わたしは立ち向かう）。そしてわたしは彼らをあなた達<sup>36</sup> の腕から断ち切り、あなた達が飛ぶ女達のために命を狙っているその命を送る。

(21 節) そしてわたしはあなた達の頭巾を断ち切り、わが民をあなた達の手から救い出す。そして彼らは、再びあなた達の手によって虜とはならないであろう。そしてあなた達は、わたしがヤハウェであることを知るのだ。

(22 節) わたしは痛めつけないのに、(あなた達が) 義人の心を偽り（をもって）挫き、悪人の手を強め、彼<sup>37</sup> の悪の道から立ち返って生きるように仕向けなかったがゆえに、

(23 節) それゆえあなた達は空しい幻を視ることもなく、再び神託を告げることもないであろう。そしてわたしはわが民をあなた達の手から救い出す。そしてあなた達は、わたしがヤハウェであることを知るのだ。

## [14 章]

(1 節) そしてイスラエルの長老達からある人々がわたしの許に来て、わたしの前に坐った。

<sup>31</sup> 直訳「彼女について」。エルサレムを指す。

<sup>32</sup> 直訳「彼女達の心から」。

<sup>33</sup> 直訳「わが手の関節」。

<sup>34</sup> ヘブライ語「ホーイ」。

<sup>35</sup> この節で「飛ぶ女達」と訳した語については諸説あるが、意味不詳。

<sup>36</sup> これ以後、呼びかけられる相手の人称が女性形から男性形に切り替わる。

<sup>37</sup> 「悪人」を指す。

(2 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(3 節) 人の子よ、これらの男達は自分の心にその偶像を上らせ、自分達の咎の蹟きを自分達の顔の前に置く。わたしは彼らのために果たして答えるべきなのか<sup>38</sup>

(4 節) それゆえ彼らに語って、あなたは彼らに言うのだ。主なるヤハウエはこう言われる。それぞれイスラエルの家の出でありながら自分の心にその偶像を上らせ、自分の咎の蹟きを自分の顔の前に置き、預言者の許に来る者、わたしヤハウエは彼の多くの偶像の許にやって来て<sup>39</sup>、その者に問いただそう<sup>40</sup>。

(5 節) それは、彼らの偶像のゆえに彼らすべてがわたしから引き離されてしまったイスラエルの家を、彼らの心において握りしめるためである。

(6 節) それゆえイスラエルの家に言え。主なるヤハウエはこう言われる。あなた達は立ち返れ。あなた達の偶像から、またあなた達のすべての忌み嫌うべきことから離れ、あなた達の顔をそむけよ。

(7 節) まことに、それぞれイスラエルの家の出、またイスラエルに寄留する寄留者に属する者でありながら、わたしから<sup>41</sup>離れてしまった者<sup>42</sup>は、自分の心にその偶像を上らせ、自分の咎の蹟きを自分の顔の前に置き、預言者の許に来て、わたしについて彼に尋ねようとする。わたしヤハウエは、わたしについてその者に問いただそう<sup>43</sup>。

(8 節) そしてわたしはその者の上にわが顔を据え、彼をしるしとし、また諺として、わが民の只中から彼を断ち切る。そしてあなた達は、わたしがヤハウエであることを知るのだ。

(9 節) そして、もし預言者が惑わされて言葉を語るならば、わたしヤハウエがその預言者を惑わしたのであり、わたしはわが手を彼の上に伸ばし、彼をわが民イスラエルの只中から滅ぼす。

(10 節) そして彼らは自分達の咎を負う。尋ねる者の咎と預言者の咎は等しい<sup>44</sup>。

(11 節) それは、イスラエルの家が再び私の後から迷い出ず、すべての彼らの過ちに

<sup>38</sup> 直訳「尋ねられるべきなのか」。

<sup>39</sup> 訳文はケレーによる。ケティープは「彼女に（おいて）」。

<sup>40</sup> この部分、BHS の修正案に従って読み替えると、「わたしヤハウエは彼の多くの偶像によって、彼に私自身応答しよう」と訳すこともできる。70 人訳はこの部分を、「わたしは彼に、彼の考えが混乱していることにおいて応答しよう」と訳している。

<sup>41</sup> 直訳「わたしの後から」。

<sup>42</sup> あるいは「引き離されてしまった者」。

<sup>43</sup> 70 人訳はこの部分を、「わたし主は、彼に、彼において、混乱した者において応答しよう」と訳している。

<sup>44</sup> 直訳「尋ねる者の咎は、預言者の咎のようである」。

よって再び自分達自身を汚さないためである。そして彼らはわが民となり、わたしは彼らの神となる。主なるヤハウェの御告げ。

(12節) そしてヤハウェの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(13節) 人の子よ、ある国がもし不実な行ないをしてわたしに対して罪を犯すならば、わたしはわが手を彼女〔その国〕の上に伸ばし、彼女〔その国〕に対してパン棒を折る。そしてわたしは彼女〔その国〕に飢饉を送り、彼女〔その国〕から人と家畜を断ち切る。

(14節) そして彼女〔その国〕の中にこれら3人の男達、ノア、ダニエル、そしてヨブがいたならば、彼らは自分達の義によって自分達の命を救うであろう。主なるヤハウェの御告げ。

(15節) もしわたしがその国に悪い獣を行き巡らせ、それ<sup>45</sup>が彼女〔その国〕を不毛にするなら、彼女〔その国〕は荒廃し、その獣のゆえに<sup>46</sup>行き巡る者は誰もいなくなる。

(16節) 彼女〔その国〕の中にこれら3人の男達（がいても）、わたしは生きている、主なるヤハウェの御告げ、（彼らは）息子達も娘達も救うことはなく<sup>47</sup>、彼ら自身のみが救われるであろう。そしてその国は、荒廃するであろう。

(17節) あるいはわたしはその国の上に剣を来たらせ、剣がその国を行き巡るようにと言おう。そしてわたしは、彼女〔その国〕から人と家畜を断ち切る。

(18節) そして彼女〔その国〕の中にこれら3人の男達（がいても）、わたしは生きている、主なるヤハウェの御告げ、（彼らは）息子達と娘達を救うことはなく、まことに彼ら自身のみが救われるであろう。

(19節) あるいはわたしは、その国に疫病を送り、彼女〔その国〕の上に血をもってわが憤りを降り注ぐ。それは、彼女〔その国〕から人と家畜を断ち切るためである。

(20節) そしてノア、ダニエル、そしてヨブが彼女〔その国〕の中に（いたとしても）、わたしは生きている、主なるヤハウェの御告げ、息子も娘も（彼らは）救うことはなく<sup>48</sup>、彼らは自分達の義によって自分達の命を救うであろう。

(21節) まことに主なるヤハウェはこう言われる。まさにわたしの四つの災いの<sup>49</sup>裁き、剣と飢饉と悪い獣と疫病をわたしがエルサレムに送り、彼女〔エルサレム〕から人と家畜を断ち切る時、（尚更そうである）。

<sup>45</sup> 直訳「彼女」。「悪い獣」を指す。

<sup>46</sup> 直訳「その獣の顔のゆえに」。

<sup>47</sup> 直訳「救うであろうか（いや、決してない）」。

<sup>48</sup> 直訳「救うであろうか（いや、決してない）」。

<sup>49</sup> 直訳「悪い」。



(22 節) そして見よ、逃れた者が彼女〔エルサレム〕に残される。連れ出された者達、息子達と娘達は<sup>50</sup>、見よ、あなた達の許に出て行く。そしてあなた達は、彼らの道と彼らの悪行の数々とを見る。そしてあなた達は、わたしがエルサレムの上にもたらした災い<sup>51</sup>のゆえ、わたしが彼女〔エルサレム〕の上にもたらしたすべてのことのゆえに<sup>52</sup>、慰められる。

(23 節) そして彼らは、あなた達を慰める。なぜならあなた達が彼らの道と彼らの悪行の数々を見るからである。そしてあなた達は、わたしが彼女〔エルサレム〕に行なったすべてのことは理由なくわたしが行なったのではないことを知るのだ。主なるヤハウエの御告げ<sup>53</sup>。

### [15 章]

(1 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(2 節) 人の子よ、葡萄の木は、森の木々の中にある房のなるすべての木より、何がまさるのか<sup>54</sup>。

(3 節) 道具を作るために、木はそこ<sup>55</sup>から取り出されるのか。(彼らは)あらゆる入れ物をそれに掛けるための木釘をそこから取り出そうとするのだろうか。

(4 節) 見よ、それ<sup>56</sup>は火にくべられて薪<sup>57</sup>とされる。その両端を火は食い尽くし、(葡萄の木は)その芯まで焼け焦がされる。それは道具とするのに都合がいいか。

(5 節) 見よ、それが無傷の時に加工されて道具とされなかったのに、火がそれを食い尽くし、(葡萄の木が)焼け焦がされる時、更に加工されて道具とされようか(いや、尚更それはない)。

(6 節) それゆえ、主なるヤハウエはこう言われる。わたしが薪として火に投げ入れた森の木の中の葡萄の木と同様に、わたしはエルサレムの住民を(火に)投げ入れる。

<sup>50</sup> この部分を BHS の修正案に従って読み替えると、「(彼らは) 息子達と娘達を連れ出し」となり、文脈的にも文法的にもより自然になる。

<sup>51</sup> 直訳「悪」。

<sup>52</sup> 「のゆえに」は BHS の修正案に従った訳。MT 通りだと意味をなさない。

<sup>53</sup> 以上の審判の対象である「その国」(あるいは「その地」)と「エルサレム」は、互換性がある。

<sup>54</sup> 訳文は、アトナハ(アクセント)の位置を一つ後ろにずらしたもの。MT 通り訳すと、「人の子よ、葡萄の木、森の木々の中にある葡萄の房(あるいは若枝)は、すべての木より何がまさるのか」となるが、この場合文法的に無理が生じる。BHS の修正案は、「房のなる」と訳した部分の削除。70 人訳にもこの部分は欠けている。

<sup>55</sup> 「森」を指す。

<sup>56</sup> 「葡萄の木」を指す。

<sup>57</sup> 直訳「食物」。火にとっての食物、という意味。

(7節) そしてわたしはわが顔を彼らの上に据える。彼らが火から出て行っても、火は彼らを食い尽くそう。そしてわたしがわが顔を彼らの上に据える時、あなた達は<sup>58</sup>わたしがヤハウエであることを知るのだ。

(8節) そしてわたしはその国を荒廃させる。それは彼らが不実な行ないをしたからである。主なるヤハウエの御告げ。

## [16章]

(1節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(2節) 人の子よ、エルサレムにその<sup>59</sup>忌み嫌うべきことの数々を知らせよ。

(3節) あなたは言うのだ。主なるヤハウエはエルサレムに対してこう言われる。あなたの出身とあなたの出自は、カナアン人の地の出である。あなたの父親はエモリ人であり、あなたの母親はヒッタイト人であった。

(4節) そしてあなたの出自だが、あなたが産み落とされた日にあなたのへその緒は切られず、あなたは水で洗われて清められる<sup>60</sup>こともなく、塩で揉まれることもなく、産着にくるまれることもなかった。

(5節) あなたのことを気にかけてこれらのことの一つでもあなたのために行なおうと、憐みの目を注ぐ者はなく<sup>61</sup>、あなたが産み落とされた日に、あなたはあなたの命の嫌悪において野の面に捨てられた。

(6節) そしてわたしはあなたの傍らを通りがかり、自分の血の中でもがいているあなたを見た。そしてわたしは自分の血の中にいるあなたに向かって、生きよ、と言った。そしてわたしは自分の血の中にいるあなたに向かって、生きよ、と言った<sup>62</sup>。

(7節) わたしはあなたを、野の若芽のように豊かに<sup>63</sup>した。そしてあなたは成長し<sup>64</sup>、大きく伸び、装飾品のきらびやかさの中に<sup>65</sup>入って行った。両胸は盛り上がり、あなたの(髪

<sup>58</sup> 70人訳は「彼らは」としている。文脈的にはその方が自然。

<sup>59</sup> 直訳「彼女の」。エルサレムを指す。

<sup>60</sup> 「清められる」と訳した語は意味不詳。古代訳は別の語と読み替えて、「油を塗る」あるいは「介抱する」と訳したりしている。

<sup>61</sup> 直訳「あなたの上には目は憐れまず」。

<sup>62</sup> BHSはこの繰り返しの一文を二重書写として削除を提案する。70人訳やいくつかの写本にも欠けている。

<sup>63</sup> 直訳「多く」。

<sup>64</sup> 直訳「育ち」。

<sup>65</sup> 直訳「装飾の装飾へと」。BHSの読み替え案に従えば、「生理の時に」あるいは「生理の中に」となる。

の) 毛<sup>66</sup>は芽吹いた。そしてあなたは裸で無一物<sup>67</sup>だった。

(8節) そしてわたしはあなたの傍らを通りかかり、あなたを見た。そして見よ、あなたは愛を交わす年頃に達していた<sup>68</sup>。そしてわたしは自分の衣の裾を広げ、あなたの裸を覆い隠した。そしてわたしはあなたに誓いを立て、あなたと契約を交わした<sup>69</sup>。主なるヤハウエの御告げ。そしてあなたは、わたしのものとなった。

(9節) そしてわたしはあなたを水で洗い、あなたの血をあなたからすすぎ、あなたに油を塗った。

(10節) そしてわたしはあなたに多彩な色の衣を着せ、あなたに上革の履物を履かせ、亜麻布であなたを包み、上質の生地であなたを覆った。

(11節) そしてわたしはあなたを装身具で飾り立てた。そしてわたしはあなたの両腕のために腕輪を、あなたの首のために首飾りを与えた。

(12節) そしてわたしはあなたの鼻のために鼻輪を、あなたの両耳のために耳輪を、あなたの頭には美しい冠を与えた。

(13節) そしてあなたは金と銀で飾り立て、あなたの衣裳は亜麻布<sup>70</sup>と上質の生地と多彩な色の布地(だった)。あなたは小麦粉と蜂蜜と油を食した<sup>71</sup>。そしてあなたは甚だしく非常に美しく、王に値するほどの風格があった。

(14節) そしてあなたの名は、あなたの美しさのゆえに諸国民の間に(広まって)行った。まことにそれ<sup>72</sup>は、わたしがあなたの上に置いたわが輝きのゆえに、完璧なものであった。主なるヤハウエの御告げ、

(15節) そしてあなたは自分の美しさにより頼み、自分の名を利用して<sup>73</sup>姦淫した。そしてあなたは、すべての通りがかりの者に対して、それが誰であっても<sup>74</sup>、あなたの姦淫を注いだ。

(16節) そしてあなたは自分の衣裳の何枚かを取り、自分のために多彩な色を配した<sup>75</sup>

<sup>66</sup> あるいは陰毛のことか。

<sup>67</sup> あるいは「丸裸」。直訳「裸で裸」。

<sup>68</sup> 直訳「あなたの時は愛の時(だった)」。

<sup>69</sup> 直訳「あなたとの契約に入った」。

<sup>70</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>71</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>72</sup> 「あなたの美しさ」を指す。

<sup>73</sup> 直訳「自分の名の上に」。

<sup>74</sup> この部分、意味不明。「それが誰であっても」という訳文は文脈からの推測による。

<sup>75</sup> 直訳「継ぎが当てられた」。

数々の高さ所を作り、その上で<sup>76</sup> 姦淫した。何のしるしにもよらず、それは起こることもない<sup>77</sup>。

(17節) そしてあなたは、わが金で、またわが銀で（作られた）私があなたに与えた麗しい装身具を取り、自分のために男性の形を数々作り、それによって姦淫した。

(18節) そしてあなたは、自分の多彩な色の衣装を取り、それら〔男性の形〕を覆い、わが油とわが薫香をその前に献げた<sup>78</sup>。

(19節) そしてわたしがあなたに与えたわがパン<sup>79</sup>、(つまり)わたしがあなたに食べさせた小麦粉と油と蜂蜜、それ〔パン〕をあなたはそれら〔男性の形〕の前に献じて宥めの香りとし、そうなった<sup>80</sup>。主なるヤハウエの御告げ。

(20節) そしてあなたは、あなたがわたしのために産んだあなたの息子達とあなたの娘達を取り、彼らをそれら〔男性の形〕のための食物としていけにえに供した。(それはこれまでの)あなたの数々の姦淫より小さいか<sup>81</sup>。

(21節) そしてあなたはわが息子達を屠り、彼らをそれら〔男性の形〕の許に運び込むことによって<sup>82</sup>、彼らを献じた。

(22節) そしてあなたの忌み嫌うべきこととあなたの姦淫のすべてとともに、あなたは、あなたが裸で無一物<sup>83</sup> だった時、あなたが自分の血の中でもがいていたあなたの幼い<sup>84</sup> 日々を思い起こす<sup>85</sup> ことはしなかった。

(23節) そしてあなたのすべての悪の後に。災いあれ、災いあれ<sup>86</sup>、あなたの上に。主なるヤハウエの御告げ。

(24節) あなたは自分のために台座を築き、自分のためにすべての広場に高い場所<sup>87</sup> を作った。

<sup>76</sup> 「その上で」は男性複数形。文脈からは「高さ所で」と理解するのが自然だが、文法上は「(取り出された何枚かの) 衣装の上で」と解釈するほかない。

<sup>77</sup> この文、意味不明。訳文はMTを直訳したもののだが、「彼女達は来ないし、彼もいないであろう」と訳すことも文法上は可能。

<sup>78</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>79</sup> 別訳「食物」。

<sup>80</sup> この部分、意味不詳。「そうなった」という訳文は、MTの直訳。70人訳「そしてそれは起こった」。

<sup>81</sup> この訳文はほぼ直訳だが、意識すれば「あなたの姦淫はまだ不十分か」という意味。

<sup>82</sup> 別訳「それら〔男性の形〕のために彼らを(火の中に)くぐらせることによって」。火による犠牲祭儀のことか。

<sup>83</sup> あるいは「丸裸」。直訳「裸で裸」(7節と同じ)。

<sup>84</sup> 直訳「若い」。

<sup>85</sup> 訳文の「あなたは…思い起こす」は、ケレーによる。

<sup>86</sup> ヘブライ語「オーイ、オーイ」。13章3、18節を参照。

<sup>87</sup> 「高い場所」と訳した語は、16節で「高さ所」と訳した語とは別。

(25 節) あなたはすべての辻<sup>88</sup>に自分の高い場所を築き、あなたの美しさを忌むべきものとなし、すべての行き交う者に対してあなたの両脚を開き、あなたの姦淫を大きくした。

(26 節) そしてあなたは、大きな一物を持つ<sup>89</sup>あなたの隣人達、エジプトの子らに向かって姦淫し、あなたの姦淫を大きくして、わたしを苛立たせた。

(27 節) そして見よ、わたしはわが手をあなたに向かって伸ばし、あなたの割り当て<sup>90</sup>を断つ。そしてわたしは恥辱であるあなたの道によって辱めを受けたペリシテの娘達、あなたを憎む女達の感情にあなたを委ねる。

(28 節) そしてあなたは、あなたの不満足ゆえアッシリアの子らに向かって姦淫した。そしてあなたは彼らと姦淫したが、やはり満足しなかった。

(29 節) そしてあなたは、カルデアへ、商人<sup>91</sup>の地に向かってあなたの姦淫を大きくしたが、やはりこれによってもあなたは満足しなかった。

(30 節) あなたの心はどんな熱に冒されていたのか<sup>92</sup>、主なるヤハウエの御告げ、あなたがこれらのすべてを行なった時に。(それは) 横柄な淫売婦の所業だ。

(31 節) すべての辻<sup>93</sup>にあなたが自分の台座を築いた時に。そしてあなたは、すべての広場に自分の高い場所を作ったが、あなたは<sup>94</sup>娼婦のようではなく、報酬を嘲った。

(32 節) 淫乱な女は、自分の夫の代わりに外国人を取るであろう。

(33 節) 人<sup>95</sup>はすべての娼婦に対してお礼の品を与えるが、あなたは自分の贈り物をあなたのすべての愛人達に与え、彼らに対して、あなたとの姦淫のために周囲からあなたの許に来るようと賄賂を渡す。

(34 節) そしてあなたにあっては、あなたの姦淫において(他の)女達とは逆転しており、あなたを求めて<sup>96</sup>姦淫が行なわれたのではない。そしてあなたが贈り物を与える時、贈り物はあなたに対して与えられたのではなく、あなたは逆転している。

(35 節) それゆえ淫婦よ、ヤハウエの言葉を聞け。

(36 節) 主なるヤハウエはこう言われる。あなたの愛人達に向けたあなたの姦淫にお

<sup>88</sup> 直訳「道の頭」。

<sup>89</sup> 直訳「肉の大きな」。

<sup>90</sup> つまり食料の割り当て分。

<sup>91</sup> ヘブライ語「カナアン」(3 節「カナアン人」参照)。

<sup>92</sup> 別訳「あなたの心はなぜ弱められたのか」。

<sup>93</sup> 注 88 を見よ。

<sup>94</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>95</sup> 直訳「彼ら」。

<sup>96</sup> 直訳「あなたの後を」。

いて、あなたの情欲が注ぎ出され、あなたの裸が顕わにされたがゆえに<sup>97</sup>、またあなたの忌み嫌うべきすべての偶像のゆえ、またあなたがそれら〔偶像〕に献じたあなたの息子達の血に应じて、

(37節) それゆえ見よ、(わたしは) あなたが懇ろになったすべてのあなたの愛人達を、そしてあなたが憎んだすべての者に加えてあなたが愛したすべての者を集める。そしてわたしは、周囲からあなたに向けて彼らを集め、あなたの裸を彼らに対して顕わにする。そして彼らは、あなたの裸のすべてを見るのだ。

(38節) わたしはあなたを、姦淫をする女達と血を流す女達への裁きで裁く。そしてわたしは、憤りと激怒の血をあなたに与える<sup>98</sup>。

(39節) そしてわたしは、あなたを彼らの手に渡す。そして彼らは、あなたの台座を引き倒しあなたの数々の高い場所を破壊し、あなたからあなたの衣装を剥ぎ取り、あなたの美しい(装身)具を取り去る。そして彼らは、あなたを裸で無一物<sup>99</sup>のままにする。

(40節) そして彼らは集会を召集してあなたを訴追し、あなたを石で打ち殺し、彼らの剣であなたを切り刻む。

(41節) そして彼らはあなたの家々を火で焼き払い、大勢の女達の目の前であなたの上に裁きを行なう。そしてわたしはあなたに娼婦をやめさせ、またあなたが報酬を与えることも二度とない。

(42節) そしてわたしはあなたに対するわが憤りを鎮め、わが激怒はあなたから離れ去る。そしてわたしは鎮まり、わたしは再び怒らない。

(43節) あなたが<sup>100</sup>自分の幼い日々を思い起こさず、これらすべてのことにおいてわたしに苛立った<sup>101</sup>がゆえに、わたしもまた、見よ、あなたの行ない<sup>102</sup>を頭上に返す<sup>103</sup>。主なるヤハウエの御告げ。そしてあなたは、あなたのすべての忌み嫌うべきことに加えて、恥ずべきことは行なわないのだ<sup>104</sup>。

<sup>97</sup> 「注ぎ出され」と「顕わにされ」をBHSの修正案に従って読み替えると、この部分は「あなたの情欲が顕わになり、あなたが自分の裸を顕わにしたがゆえに」となる。ツインマーリはこの読み替え案に賛成する。

<sup>98</sup> 別訳「そしてわたしは、あなたを憤りと激怒の血に渡す」。

<sup>99</sup> あるいは「丸裸」。直訳「裸で裸」(7, 22節と同じ)。

<sup>100</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>101</sup> 直訳「わたしに対して震えた」。BHSの修正案は、本文をいじらずに読み方のみを変える。この修正によれば、訳文は「あなたはわたしを苛立たせた」となる。70人訳も同趣旨。意味的にはこの方がつながりがよくなる。

<sup>102</sup> 直訳「道」。

<sup>103</sup> 直訳「与える」。

<sup>104</sup> 70人訳は「行なった」となっていて、MTの否定辞は訳されていない。BHSの修正案は逆に否

(44 節) 見よ、諺を言うすべての者は、あなたについてこのように諺を言うだろう。この母親にしてこの娘<sup>105</sup>、と。

(45 節) あなたは、自分の夫と自分の息子達を嫌悪した女であるあなたの母親の娘であり、あなたは自分の夫と自分達の息子達を嫌悪した姉妹達<sup>106</sup>の姉妹である。あなた達の母親はヒッタイト人であり、あなた達の父親はアモリ人である。

(46 節) そしてあなたの姉はサマリア、彼女とその娘達で、あなたの北<sup>107</sup>の住人である。そしてあなたより年下のあなたの妹はあなたの南側<sup>108</sup>の住民で、ソドムとその娘達である。

(47 節) そしてあなたは、彼女達の道<sup>109</sup>に歩まず、彼女達の忌み嫌うべきことの数々を行なわなかったが<sup>110</sup>、ほんの僅かのうちにあなたのすべての道<sup>111</sup>において彼女達より一層墮落した。

(48 節) わたしは生きている、主なるヤハウエの御告げ、あなたの妹ソドムと彼女の娘達は、あなたとあなたの娘達が行なったほど(のこと)を行なっただろうか(いや、決してそうではない)。

(49 節) 見よ、あなたの妹ソドムの咎はこれである。飽食の高ぶりと安全への安心が彼女と彼女の娘達にあり、彼女は苦しむ者と貧しい者を助けなかった<sup>112</sup>。

(50 節) そして彼女達は傲慢になり、忌み嫌うべきことをわたしの前で行なった。そしてわたしは彼女達を、わたしが見た時に遠ざけた<sup>113</sup>。

(51 節) そしてサマリアは、あなたの罪の半分ほども罪を犯さなかった。そしてあなたはあなたの忌み嫌うべきことの数々を彼女達より多くなし、あなたの姉妹達<sup>114</sup>を、あなたが行なった<sup>115</sup>あなたのすべての忌み嫌うべきことによって正当化してしまったのだ。

(52 節) あなたもまた、自分の恥を負え。あなたは自分の咎の数々によって、あなた

---

定辭に疑問詞を加えており、「行なわなかったのか」となる。

<sup>105</sup> 直訳「彼女の母親のように、彼女の娘」。

<sup>106</sup> BHS の提案に従って、複数形に読み替える。70 人訳、ウルガタ、二つの写本も同様。MT の通りだと、以下文法的に不可能となる。

<sup>107</sup> 直訳「左」。太陽の昇る方角である東を向いた方向。

<sup>108</sup> 直訳「右側」。前注を参照。

<sup>109</sup> あるいは「行いの数々」。

<sup>110</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>111</sup> あるいは「行いの数々」。

<sup>112</sup> 直訳「～の手を強くしなかった」。

<sup>113</sup> BHS の修正案に従って最後の動詞を読み替えると、この一文は「そしてわたしは彼女達を、あなたが見た通り遠ざけた」となり、意味がより自然になる。

<sup>114</sup> 訳文はケレーによる。但し BHS は、ケティーブに従って「あなたの姉」と読み、その前の「彼女達より」を「彼女より」と読み替える提案をする。その方が意味の辻褄は合う。

<sup>115</sup> 訳文はケレーによる。

の姉妹のために執り成しをしたのだ。すなわちあなたが彼女達より忌まわしい行ないをしたので、彼女達はあなたよりはまだ正しいということになったのだ。また、あなたは恥じ入り、あなたが自分の姉妹を正当化してしまったことによる自分の恥を負え。

(53 節) そしてわたしは、彼女達の捕囚を、ソドムとその娘達の捕囚を、サマリアとその娘達の捕囚を撤回する。そして彼女達の只中で、あなたの捕囚を（撤回する）。

(54 節) それはあなたが自分の恥を負い、あなたが為したすべてのことによって辱しめを受け、そのことによってあなたは彼女達の気休めになったからである<sup>116</sup>。

(55 節) そしてあなたの姉妹達（について）は、ソドムとその娘達が以前に立ち返り、サマリアとその娘達が以前に立ち返り、あなたとその娘達が以前に立ち返るであろう。

(56 節) そしてあなたの妹ソドムは、あなたが高ぶっていた日に、あなたの口に噂となつてはいなかった<sup>117</sup>。

(57 節) あなたの悪が顕わにされる前に、彼のように時が<sup>118</sup> アラムの娘達とそのすべての周囲の女達、あなたを周囲から嘲るベリシテの娘達のそしり（となる）。

(58 節) あなたの恥辱とあなたの忌み嫌うべきことの数々を、あなたは負うのだ。ヤハウエの御告げ。

(59 節) まことに主なるヤハウエはこう言われる。わたしはあなたが行なったようにあなたに行なう<sup>119</sup>。あなたは誓いを侮り、契約を破った。

(60 節) だがわたしはあなたの幼い日々のわたしのあなたとの契約を想起し、あなたに対してとこしえの契約を立てる。

(61 節) そしてあなたは自分の行ない<sup>120</sup>を思い起こし、あなたが自分より年下の妹に加えて自分より年上の姉を（手に）取る時、あなたは辱しめを受ける。そしてわたしは彼女達をあなたの娘達とするが、（それは）あなたとの契約によるのではない。

(62 節) そしてわたしは、あなたとのわたしの契約を立てる。そしてあなたは、わたしがヤハウエであることを知るのだ。

(63 節) それは、あなたが行なったすべてのことについて、わたしがあなたを贖つ

<sup>116</sup> 「そのことによって」以下の直訳「あなたが彼女達を慰めたことにおいて」あるいは「あなたが彼女達を慰めた時に」。

<sup>117</sup> BHS の修正案は、否定辞に疑問詞を加え、「～いなかったか」。70 人訳もそのように訳している。43 節を参照。

<sup>118</sup> 「彼のように時が」と訳した部分、意味不明。別訳「（のそしり）の時に」。BHS の読み替え案に従えば、「今やあなたは彼女のようである」。70 人訳は「行ないは今や」。

<sup>119</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>120</sup> 直訳「道」。



た<sup>121</sup>時、あなたが(それを)思い起こし、恥じ入り、あなたの恥のゆえに二度とあなたが口を開くことをしない<sup>122</sup>ためである。

## [17章]

(1節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(2節) 人の子よ、イスラエルの家に向かって謎かけをし、たとえ話をせよ。

(3節) そしてあなたは言うのだ。主なるヤハウエはこう言われる。巨大な両翼、長い風切り羽(を持ち)、多彩な色の羽毛に満ちた大鷲がレバノンに飛来し、杉の樹冠を取り去った。

(4節) そして(大鷲は)その若枝の先端を啄み、それを商人<sup>123</sup>の地へ運び去り、交易人達の町に置いた。

(5節) そして(大鷲は)その地の種を取り、それを畑地<sup>124</sup>に与え、豊かな水辺に取り<sup>125</sup>、柳<sup>126</sup>(のようにそれ)を置いた。

(6節) そしてそれ〔種〕は芽吹き、丈低く勢いのある葡萄となり、その枝々は彼〔大鷲〕に向かい、その根は彼〔大鷲〕の下にあった。そしてそれは葡萄となり、枝々を芽吹かせ、大枝を伸ばした<sup>127</sup>。

(7節) そして、巨大な両翼と多くの羽毛(を持った)別の<sup>128</sup>大鷲がいた。そして見よ、この葡萄はその根を彼〔別の大鷲〕へと向け、その枝々を彼に向かって伸ばした。それは、それが植えられた庭よりも更に彼が水を与える(ことを期待した)ためである。

(8節) よい畑地に、豊かな水辺に、彼女〔葡萄〕は植えられていた。それは、枝を張り、果実を成し、見事な葡萄となるためであった。

(9節) 語れ。主なるヤハウエはこう言われる。彼女〔葡萄〕は繁茂するであろう<sup>129</sup>。その根は引き離され、その果実は引き剥がされないか<sup>130</sup>。そしてそのすべての若枝の葉は

<sup>121</sup> 直訳「(～の罪を)覆い隠した」。

<sup>122</sup> 直訳「あなたにとって二度と開口はないであろう」。

<sup>123</sup> ヘブライ語「カナアン」。

<sup>124</sup> 直訳「種蒔きの野」。

<sup>125</sup> 「取り」と訳した語は意味不明。その前の「取り」の不完全な二重書きか。

<sup>126</sup> 旧約聖書中ここにだけ出て来る語。あるいは水辺の植物の総称か。

<sup>127</sup> この一文の3つの動詞の格は、いずれも女性単数形。主語は「葡萄」か。

<sup>128</sup> 直訳「一(羽)の」。

<sup>129</sup> BHSの修正案は、反語的な疑問詞を加え、「～するであろうか」。いくつかの写本もこうなっており、70人訳もこの読み方に対応する。

<sup>130</sup> 直訳「彼はその根を引き離し、その果実を引き剥がさないか」。

しおれ、彼女〔葡萄〕はしおれるであろう。そして腕力にも大勢の民にもよらず、彼女〔葡萄〕はその根から引き抜かれる<sup>131</sup>。

（10節）そして見よ、植えられて、彼女〔葡萄〕は繁茂するであろうか。東風が彼女を打つ<sup>132</sup>時、彼女はしおれてしまわないか。若枝の（芽吹き）庭で、それはしおれるであろう。

（11節）そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

（12節）反逆の家に語りなさい。あなた達はこれらのことが何（を意味する）か、分からないのか、と。語れ。見よ、バビロンの王がエルサレムに到来し、その王とその高官達を取り、彼らを彼の許、バビロンへと連れて行った。

（13節）そして彼〔バビロンの王〕は王族のうちから（1人を）取り、彼と契約を結び<sup>133</sup>、彼に誓約をさせ<sup>134</sup>、その国の主立った者達を取り去った。

（14節）それは（その国が）低い王国となり、蜂起する<sup>135</sup>ことなく、彼の契約を守り続けるようになるためであった。

（15節）そして彼は彼〔バビロンの王〕に反抗し、自分に馬と大軍を送ってくれるようにとエジプトに自分の使者達を遣わした。彼は成功するだろうか。これらのことをする者が逃れられるだろうか。契約を破って、逃れられる（だろうか）。

（16節）わたしは生きている。主なるヤハウエの御告げ。彼を王にした（バビロンの）王の場所で、彼〔バビロンの王〕への誓いを侮り、彼〔バビロンの王〕の彼との契約を破った彼は、バビロンの只中で死なないであろうか（いや、必ず死ぬであろう）。

（17節）そしてファラオは、戦いにおいて多くの命を断ち切るため、土塁を積み上げ、包囲壁を築く時、大きな軍事力や大軍によって彼に対して（それを）為しはしないであろう。

（18節）そして彼は、誓いを侮り、契約を破った。見よ、彼はその手を差し出し、これらのことすべてを為した。彼は逃れられないであろう。

（19節）それゆえ主なるヤハウエはこう言われる。わたしは生きている。彼が侮った

<sup>131</sup> 直訳「彼女の根から彼女を持ち上げるには（～によらない）」。

<sup>132</sup> 直訳「彼女に触れる」。

<sup>133</sup> 直訳「契約を切り」。

<sup>134</sup> 直訳「誓いへと入らせ」。

<sup>135</sup> 直訳「身を起こす」。

わたしの誓いと彼が破ったわたしの契約、わたしはそれ<sup>136</sup>を彼の頭上に報いる<sup>137</sup>。

(20 節) そしてわたしは彼の上にわが網を広げ、彼はわが罫に捕えられる。そしてわたしは彼をバビロンへと連れて行き、彼がわたしに対して働いた不実な行ない(のゆえに)<sup>138</sup>、そこでわたしは彼を裁く。

(21 節) そしてすべての彼の軍勢の中ですべての逃れた者達<sup>139</sup>は、剣によって倒れ、残りの者達は四方に<sup>140</sup>散らされよう。そしてあなた達は、わたしヤハウエが語ったことを知るのだ。

(22 節) 主なるヤハウエはこう言われる。そしてわたしは(丈の)高い杉の樹冠から一部を取り、下ろす<sup>141</sup>。わたしは柔らかなその若枝の先端を<sup>142</sup>啄み、わたしが(それを)高くそびえる山の上に植える。

(23 節) イスラエルの高い山にわたしがそれ〔杉〕を植えると、それは枝を成し、果実を付け、見事な杉となる。そしてその下にすべての鳥、すべての翼が住み、その枝々の陰に住む。

(24 節) そしてすべての野の木々は、わたしヤハウエが(丈の)高い木を低くし、(丈の)低い木を高くし、みずみずしい木を枯らし、枯れ木を芽吹かせるということを知るのだ。わたしヤハウエが語り、行なう。

## [18 章]

(1 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(2 節) あなた達がイスラエルの大地に対して言っている、父祖が熟さない葡萄を食べれば息子達の歯が傷む、というこの諺は、あなた達にとって何なのか。

(3 節) わたしは生きている。主なるヤハウエの御告げ。イスラエルにおいてこの諺をあなた達が再び口にすることがあろうか(いや、決してない)。

(4 節) 見よ、すべての命はわたしのもの、父の命も息子の命も等しくわたしのもの。罪を犯す者の命は、死ぬであろう。

<sup>136</sup> 「それ」は男性単数接尾辞だが、「誓い」も「契約」も女性形。BHS は女性単数または女性複数への読み替えを提案する。

<sup>137</sup> 直訳「与える」。

<sup>138</sup> BHS の読み替え案に従えば、この部分は「彼がわたしに対して不実を働いたことのゆえに」となり、前後のつながりがよくなる。

<sup>139</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>140</sup> 直訳「すべての風に向かって」。

<sup>141</sup> 直訳「与える」。訳文は文脈による推測。

<sup>142</sup> 直訳「頭から」。

(5 節) そしてある人が義人で、公正と正義を行ない、

(6 節) 彼が山々<sup>143</sup>の上で食べず、その眼をイスラエルの家の偶像に向かって上げず、自分の同胞の妻を汚さず、不浄（の中の）女に近づかず、

(7 節) そして人が抑圧をせず、借金の質物<sup>144</sup>を返し、強奪をせず、飢えた者に自分のパンを与え、裸の者を衣で覆い、

(8 節) 彼が利息を取って貸すことをせず<sup>145</sup>、利得を取らず、その手を不正から遠ざけ、人と人との間に真実の裁きを行ない、

(9 節) わが掟によって彼が歩み、わが裁きを守って真実を行なうならば、彼は義人であり、必ず生きる。主なるヤハウェの御告げ。

(10 節) そして彼が（人の）血を流す乱暴者の息子をもうけ、（息子が）ああ、これらの一つから（さえも離れて）行ない<sup>146</sup>、

(11 節) そして彼がこれらすべてを行なわず、それどころか山々の上で食らい、自分の同胞の妻を汚し、

(12 節) 虐げられた者、貧しい者を抑圧し、強奪をし、質物を返さず、その眼を偶像に向かって上げ、忌み嫌うべきことを行ない、

(13 節) 彼が利息を取って貸し<sup>147</sup>、利得を取り（ながら）、生きている（だろうか）。彼は生きない。彼はこれらすべての忌み嫌うべきことをした。彼は必ず殺されなければならない。彼の血（の責任）は、彼（自身）に降りかかる。

(14 節) そして見よ。彼が息子をもうけ、彼〔息子〕が彼の父親の為したすべての罪を見て、彼が見て、それら〔父親の為したすべての罪〕のようには行なわず、

(15 節) 彼が山々の上で食らわず、その目をイスラエルの家の偶像に向かって上げず、自分の同胞の妻を汚さず、

(16 節) そして人が抑圧をせず、質物を取らず、強奪をせず、飢えた者に自分のパンを与え、裸の者を衣で覆い、

(17 節) その手を虐げられた者から遠ざけ、利息と利得を取らず、わが裁きを行ない、わが掟によって歩むならば、彼は彼の父の咎によっては死なず、必ず生きるであろう。

<sup>143</sup> BHS の読み替え案は「血」。22 章 9 節、33 章 25 節を参照。

<sup>144</sup> 直訳「彼の質物、借金」。訳文は文脈による推測。

<sup>145</sup> 直訳「天引きによって与えず」。

<sup>146</sup> この節の後半はテキストが壊れており、意味不明。70 人訳は「そして彼が罪の数々を行うならば」で、MT とは全く並行しない。

<sup>147</sup> 直訳「天引きによって与え」。

(18 節) 彼の父は抑圧を行ない、兄弟の<sup>148</sup>強奪を行ない、彼の人々の只中でよからぬことを為したので、見よ、彼は自分の咎によって死んだ。

(19 節) そしてあなた達は言う、なぜその息子はその父の咎を負わないのか、と。しかしその息子は公正と正義を行ない、わが掟のすべてを守り、それらを行なったので、彼は必ず生きる。

(20 節) 罪を犯す者の命は、死ぬであろう。息子はその父の咎を負わず、父はその息子の咎を負わない。義人の義は彼の上であり、悪人の<sup>149</sup>悪は彼の上にある。

(21 節) そしてもし悪人が彼の為したその罪のすべてから引き返し、わが掟のすべてを守り、公正と正義を為すならば、彼は必ず生き、死なないであろう。

(22 節) 彼が為した彼の過ちのすべては彼に対して覚えられず、彼が為した彼の義によって彼は生きるであろう。

(23 節) わたしが悪人の死を喜ぶであろうか。主なるヤハウエの御告げ。彼は、彼の道から引き返す時、生きないであろうか (いや、生きる)<sup>150</sup>。

(24 節) そして義人がその義から引き返し、悪人が為したすべての忌み嫌うべきことに従って不義を為す時、彼は (それを) 為して生きている (か)。彼が為した彼の義のすべては覚えられず、彼が働いた不実な行ないと彼が犯した彼の罪によって、彼は死ぬであろう。

(25 節) しかしあなた達は言う、主の道は正当とされない、と。聞け、イスラエルの家よ。わが道は正当とされないか。あなた達の道が正当とされないのではないのか。

(26 節) そして義人がその義から引き返し、不義を為し、それらのゆえに死ぬ時、彼は彼が為した彼の不義のゆえに死ぬのである。

(27 節) そして悪人が彼の為したその悪から引き返し、公正と正義を為す時、彼は自分の命を生かすであろう。

(28 節) そして彼が見て、彼が為した自分のすべての過ちから引き返すなら、彼は必ず生き、死ぬことはないであろう。

(29 節) しかしイスラエルの家は言う、主の道は正当とされない、と。イスラエルの家よ、わが道は正当とされないのか。あなた達の道が正当とされないのではないのか。

<sup>148</sup> つまり「兄弟から」という意味か。書記の誤記である可能性がある。BHS の修正案に従えば訳文から「兄弟の」は消える。

<sup>149</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>150</sup> BHS の修正案に従って「死」に当たる語に前置詞を付けると、後半は「彼が彼の道から引き返して生きることを (わたしは喜ば) ないであろうか (いや、喜ぶ)」という別訳も可能になる。

(30 節) それゆえイスラエルの家よ、わたしはあなた達をそれぞれその道に従って裁く。主なるヤハウェの御告げ。あなた達は、立ち返り、あなた達のすべての過ちから離れよ。そうすれば、それはあなた達にとって、咎の蹟きとはならないであろう<sup>151</sup>。

(31 節) あなた達は、あなた達がそれらによって<sup>152</sup> 犯したあなた達のすべての過ちをあなた達から捨て去り、あなた達のために新しい心と新しい霊を作り出せ。イスラエルの家よ、あなた達はどのようにして死のうとするのか。

(32 節) まことにわたしは死者の死を喜ばないであろう。主なるヤハウェの御告げ。だからあなた達は、翻って生きるのだ。

## [19 章]

(1 節) そしてあなたは、イスラエルの君主達に対して哀歌を上げよ。

(2 節) そしてあなたは言うのだ。

あなたの母はどんな雌獅子（だったの）か。

彼女は獅子達の間伏し<sup>153</sup>、若獅子達の只中で、彼女の子獅子達を大きくした。

(3 節) そして彼女は彼女の子獅子達のうちから 1 頭を（育て）上げ、彼は若獅子となり、獲物を引き裂くことを覚え、人を食った。

(4 節) そして諸国民は彼について聞いた、彼は落とし穴で捕えられた、と。

そして彼らは鉤に付けて彼を連れて行った、エジプトの地へと。

(5 節) そして彼女は見た、彼女は待ち、望みが失せたことを。

そして彼女は彼女の子獅子達のうちから 1 頭を取り、彼を若獅子とした。

(6 節) そして彼は獅子達の間を歩き回り、若獅子となり、

獲物を引き裂くことを覚え、人を食った。

(7 節) そして彼は彼の寡婦達を知り<sup>154</sup>、彼らの町々を荒廃させた。

そして地とその豊かさとは荒れ果てよう、彼の咆哮の声のゆえに。

(8 節) そして諸国民は彼に立ち向かった、周囲の諸州から。

そして彼らは彼に対して網を広げ、彼は落とし穴で捕えられた。

<sup>151</sup> この動詞は男性単数形だが、文脈からすれば主語は「あなた達のすべての過ち」であり、複数形の方が整合性はある。ツィンマーリによれば、「蹟き」に引きずられて単数形になった。

<sup>152</sup> BHS の読み替え案に従えば、「わたしに対して」。

<sup>153</sup> 哀歌（キナー）は 3 + 2 強勢の韻律だが、訳文は MT のアトナハ（アクセント）による意味の区切りを優先した。

<sup>154</sup> ヘブライ語の「知る」は性交を暗示する語。この部分を 70 人訳は「そして彼は彼の傲慢さでもって養い」と訳す。アキラ訳は「そして彼は彼の寡婦達を傷つけた」。

(9 節) 彼らは彼に枷と鉤を付け<sup>155</sup>、バビロンの王の許へ彼を連れて行った。彼らは彼を砦の中に連れて行った。それは彼の声が再びイスラエルの山々に聞かれなくするためであった。

(10 節) あなたの母親はあなたの血の中の<sup>156</sup> 葡萄のように、水辺に植えられた。

(彼女は) 実を結び、枝を茂らせた、豊富な水のゆえに。

(11 節) そして支配者達の杖<sup>157</sup> となるべき強い枝々が彼女〔葡萄〕のものとなり、

(彼女は) その丈が繁み<sup>158</sup> の間を越えて高くなり、その高さのゆえ、その枝々の多さのゆえに、(際立って) 見えた。

(12 節) そして彼女〔葡萄〕は憤りによって根こそぎにされ、地に引き倒され、東風が彼女の実を枯らした。それら〔彼女の実〕は碎かれ、枯れ(てしまい)、強い枝は火がそれを食い尽くした。

(13 節) そして今、彼女〔葡萄〕は荒れ野に植えられた、干からびて乾いた地に。

(14 節) そして火が枝から出て、その若枝、彼女の実を食い尽くした。

そして強い枝、支配の杖は、彼女〔葡萄〕の上にはなかった。

これは哀歌であり、(それは) 哀歌となった。

## [20 章]

(1 節) 第 7 年、第 5 (の月)、その月の 10 (日) のこと、イスラエルの長老達からある人々が、ヤハウエに尋ねるためにやって来て、わたしの前に坐った。

(2 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(3 節) 人の子よ、イスラエルの長老達に語れ。そしてあなたは彼らに言うのだ。主なるヤハウエはこう言われる。私に尋ねるためにあなた達はやって来たのか。わたしは生きている。わたしはあなた達のために答える<sup>159</sup> であろうか (いや、決してそれはない)。主なるヤハウエの御告げ。

(4 節) あなたは彼らを裁くのか、あなたは裁くのか、人の子よ<sup>160</sup>。彼らの父祖達の忌み嫌うべきことの数々を彼らに知らせよ。

<sup>155</sup> 訳文は K & B を使用したもの。BDB を使用した別訳は、「枷を付けて檻に入れ」。

<sup>156</sup> 二つの写本では「あなたの葡萄畑の」となっている。BHS の読み替え案によれば、「葡萄畑の中の」となる。その他、様々な読み替えの試みがある。

<sup>157</sup> 70 人訳は「民族 (部族)」

<sup>158</sup> BHS の読み替え案に従えば、「雲」。

<sup>159</sup> 直訳「尋ねられる」。訳文は 70 人訳に沿った意識。

<sup>160</sup> 70 人訳は「わたしは彼らを罰するであろうか、彼は罰するであろう、人の子よ」と訳す。

(5節) そしてあなたは彼らに言うのだ。主なるヤハウエはこう言われる。イスラエルをわたしが選んだ日、わたしはヤコブの家の子孫<sup>161</sup>に対してわが手を上げ、エジプトの地で彼らにわたし自身を知らせた。そしてわたしは彼らに対してわが手を上げてこう言った。わたしはヤハウエ、あなた達の神。

(6節) その日、わたしは彼らに対してわが手を上げ、エジプトの地から彼らを導き出し、彼らのためにわたしが選んだ乳と蜜の流れる地へ（導くことを誓った）。それこそは、あらゆる土地にまさる麗しさ（の地である）。

(7節) そしてわたしは彼らに言った。各自、自分の目の（前の）憎むべきものの数々を投げ捨て、エジプトの偶像で自分自身を汚さないようにせよ。わたしはヤハウエ、あなた達の神である。

(8節) そして彼らはわたしに反逆し、私に聞こうとはしなかった。各自、彼らの目の（前の）憎むべきものの数々を投げ捨てず、エジプトの偶像を捨てなかった。そしてわたしは、エジプトの只中でわが憤りを彼らの上に注ぎ、わが怒りを彼らに対して全うする、と言った。

(9節) しかしわたしはわが名のために、彼らとその只中にある諸国民の目の前でそれ〔わが名〕が汚されないように為した。わたしは、彼らをエジプトの地から導き出すことにおいて、彼ら〔諸国民〕に対して彼らの目の前でわたし自身を知らしめた。

(10節) そしてわたしは彼らをエジプトの地から導き出し、彼らを荒れ野へと導き入れた。

(11節) そしてわたしは、彼らにわが掟を与え、わが戒律を彼らに知らせた。人はそれらを行なえば、それらによって生きるのである。

(12節) そしてまた、わたしはわが安息の日々を彼らに与え、私と彼らの間のしるしとなるようにした。それは、わたしヤハウエがそれら〔安息の日々〕を聖別していることを知るためである。

(13節) そしてイスラエルの家は荒れ野でわたしに反逆し、わが掟によって歩まず、わが戒律を拒んだ。人はそれらを行なえば、それらによって生きるのである（が）。そして彼らはわが安息の日々を非常に汚した。そしてわたしは、荒れ野でわが憤りを彼らの上に注ぎ、彼らを滅ぼし尽くす、と言った。

(14節) しかしわたしはわが名のために、わたしがその目の前で彼ら〔イスラエル〕

---

<sup>161</sup> 直訳「種」。



を導き出した諸国民の目の前でそれ〔わが名〕が汚されないように為した。

(15 節) そしてまたわたしは荒れ野で彼ら〔イスラエル〕に対してわが手を上げ、わたしが与えた乳と蜜の流れる地に彼らを導き入れない (ことを誓った)。それこそは、あらゆる土地にまさる麗しさ (の地である)。

(16 節) それは、彼らがわが戒律を拒み、わが掟 (について) はこれによって歩まず、わが安息の日々を汚したからである。まことに彼らの心は、彼らの偶像供を慕って<sup>162</sup> 歩んだ。

(17 節) そしてわが目は彼らを憐れみ、彼らを滅ぼさなかった。そしてわたしは彼らを荒れ野で終わりにしなかった。

(18 節) そしてわたしは荒れ野で彼らの子らに言った。あなた達は、自分達の父祖の掟に歩んではならず、彼らの戒律を守ってはならず、彼らの偶像供によって自らを汚してはならない。

(19 節) わたしはヤハウエ、あなた達の神。あなた達はわが掟に歩みわが戒律を守り、それを行なえ。

(20 節) そしてあなた達は、わが安息の日々を聖別せよ。そしてそれら〔わが安息の日々〕はわたしとあなた達の間のしるしとなるであろう。それは、わたしヤハウエがあなた達の神であることを知るためである。

(21 節) しかし子らはわたしに反逆し、わが掟に歩まず、わが戒律を守ってそれらを行なうことをしなかった。人はそれらを行なえば、それらによって生きるのである (が)。彼らはわが安息の日々を汚した。そしてわたしは、荒れ野でわが憤りを彼らの上に注ぎ、わが怒りを彼らに対して全うする、と言った。

(22 節) しかしわたしはわが手を引き返し、わが名のために、わたしがその目の前で彼ら〔イスラエル〕を導き出した諸国民の目の前で、(わが名が) 汚されないように為した。

(23 節) またわたしは荒れ野で彼らに対してわが手を上げ、彼らを諸国民の間に散らし、彼らを諸国の間にまき散らす (ことを誓った)。

(24 節) それは、かれらがわが戒律を行なわず、わが掟を拒み、わが安息の日々を汚したからである。そして彼らの目は、彼らの父祖の偶像供を慕って<sup>163</sup> いた。

(25 節) そしてわたしもまた彼らに、よからぬ掟と、彼らがそれによって生きることのない戒律を与えた。

<sup>162</sup> 直訳「偶像供の後を」。

<sup>163</sup> 前注と同じ。

(26 節) そしてわたしは、胎を最初に開くものすべてを献げる<sup>164</sup> ことによる彼らの献げ物によって、彼らを汚した。それは彼らを荒廃させるため、それは彼らがわたしはヤハウエであることを知るためである。

(27 節) それゆえ人の子よ、イスラエル之家に語って、あなたは彼らに言うのだ。主なるヤハウエはこう言われる。あなた達の父祖はわたしに対して不実な行ないをすることによって、再びこのようにわたしを冒瀆した。

(28 節) そしてわたしは、彼らに与えたとわが手を上げ(て誓った)地へと彼らを導き入れた。そして彼らは、すべての高い丘とすべての青々とした木を見て、そこで彼らの犠牲を献げ、そこで怒り(をもたらず)彼らの奉納を献じ、そこに彼らの宥めの香りを置き、そこに彼らの献酒を注いだ。

(29 節) そしてわたしは彼らに言った。あなた達がそこに<sup>165</sup>行こうとする<sup>166</sup>高き所<sup>167</sup>とは何か<sup>168</sup>そしてその名は<sup>169</sup>今日まで高き所<sup>170</sup>と呼ばれている。

(30 節) それゆえイスラエル之家に言え。主なるヤハウエはこう言われる。あなた達はあなた達の父祖の道によって自分達自身を汚し、あなた達は彼らの憎むべきことの数々を求めて姦淫しているのか。

(31 節) そしてあなた達の献げ物を上げる時、あなた達の息子達を火によって献げる<sup>171</sup>時、あなた達は今日まであなた達の偶像のすべてによって自らを汚してきたのだ。それなのにイスラエル之家よ、わたしはあなた達のために答えるべきなのか<sup>172</sup>。わたしは生きている、主なるヤハウエの御告げ、わたしはあなた達のために答えるべきなのか<sup>173</sup>(いや、決してそうではない)。

(32 節) あなた達の心に浮かび上がって来ること<sup>174</sup>は、決してそうはならない<sup>175</sup>。あなた達は、われわれは諸国民のように、諸国の諸族のように、木と石に仕えよう、と言って

<sup>164</sup> 直訳「通らせる」。火をくぐらせることによって子を焼いて献げ物とすることを暗示する。31 節を参照。また、16 章 21 節の注を参照。

<sup>165</sup> ヘブライ語「シャーム」。

<sup>166</sup> ヘブライ語「バーイーム」。

<sup>167</sup> ヘブライ語「バーマー」。

<sup>168</sup> ヘブライ語「マー」。

<sup>169</sup> ヘブライ語「シェマーハ」。

<sup>170</sup> ヘブライ語「バーマー」。この節全体が韻を踏んでいる。

<sup>171</sup> 直訳「火の中を通らせる」。

<sup>172</sup> 直訳「尋ねられるべきなのか」。

<sup>173</sup> 前注と同じ。

<sup>174</sup> 直訳「あなた達の霊に対して上って来るもの」。11 章 5 節を参照。

<sup>175</sup> 別訳「実現しない」。

いるが。

(33 節) わたしは生きている。主なるヤハウエの御告げ。わたしは強い手をもって、広げられた腕をもって、降り注がれた憤りをもって、あなた達の上に王として君臨しないであろうか (いや、必ずする)。

(34 節) そしてわたしは、強い手をもって、広げられた腕をもって、降り注がれた憤りをもって、あなた達を諸民族から導き出し、あなた達をあなた達が散らされた国々から集める。

(35 節) そしてわたしはあなた達を諸民族の荒れ野に導き入れ、そこで顔と顔を合わせてあなた達を裁く。

(36 節) わたしがあなた達の父祖をエジプトの地の荒れ野で裁いたように、わたしはあなた達を裁くであろう。主なるヤハウエの御告げ。

(37 節) そしてわたしはあなた達に杖の下を通らせ、あなた達を契約の紐帯の中に導き入れる。

(38 節) そしてわたしは、あなた達から反抗する者達と私に背く者達を切り離す。わたしは彼らを彼らの寄留の地から導き出すが、彼らは<sup>176</sup> イスラエルの大地に入ることはない。そしてあなた達は、わたしがヤハウエであることを知るのだ。

(39 節) そしてあなた達、イスラエルの家よ、主なるヤハウエはこう言われる。それぞれ自分の偶像供に行き、仕えよ。そして後には、あなた達が誰もわたしに聞き従わない、ということがあろうか (いや、そんなはずはない)<sup>177</sup>。そしてわが聖なる名を、あなた達はあなた達の献げ物の数々とあなた達の偶像供によって、再び汚すことはないであろう。

(40 節) まことにわが聖なる山で、イスラエルの山で、主なるヤハウエの御告げ。そこでイスラエルの全家、そのすべては、その地でわたしに仕えよう。わたしは彼らを受け入れ、そこであなた達の献げ物とあなた達の最上の献納物とを、すべての聖なる物として要求するであろう。

(41 節) わたしがあなた達を諸民族から導き出し、あなた達をあなた達が散らされた

<sup>176</sup> 訳文は、いくつかの写本や BHS の提案に従って読み替えたもの。MT を直訳すると「彼は」となり、文脈上意味をなさない。

<sup>177</sup> 意味不詳。訳文は、強調的肯定文と解したもの。ここまですべて BHS の提案に従って修正すると、「そしてあなた達、イスラエルの家よ、主なるヤハウエはこう言われる。それぞれ自分の偶像供を投げ捨て、あなた達の後ろに焼き捨てよ。わたしに聞き従う者が、あなた達にいるならば (あるいは「いるだろうか」)」という訳文になる。読み替えない場合、「そして後には、」に続く部分を「あなた達が誰もわたしに聞き従わないならば」と訳すことも可能。いずれも、この部分とその前の部分の条件節と解した訳。70 人訳は、「そしてあなた達、イスラエルの家よ、主、主はこう言われる。各自その生活習慣を除き去れ。そしてこれらの後、あなた達はわたしに聞かないであろうか」と訳している。

国々から集める時、わたしは宥めの香りによって<sup>178</sup> あなた達を受け入れるであろう。そしてわたしは諸国民の目の前で、あなた達によって自らを聖なる者として示す。

(42節) そしてわたしがあなた達をイスラエルの大地に、わたしがわが手を上げてあなた達の父祖に与える(と誓った)土地に導き入れる時、あなた達はわたしがヤハウェであることを知るのだ。

(43節) そしてあなた達はそこで、あなた達の道と、それによってあなた達が自らを汚したあなた達の悪行のすべてを思い出す。そしてあなた達は、あなた達が為したあなた達のすべての悪によって、自らの顔を嫌悪する。

(44節) わたしがあなた達に対して、あなた達の悪い道やあなた達の墮落した悪行の数々に従ってではなく、わが名のために処遇する時、イスラエルの家よ、あなた達はわたしがヤハウェであることを知るのだ。主なるヤハウェの御告げ。

## [21章]

(1節) そしてヤハウェの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(2節) 人の子よ、あなたの顔を南<sup>179</sup>の方角に向け、南<sup>180</sup>に向かって(涎を)垂らし、南方<sup>181</sup>の野の<sup>182</sup>森に向かって預言せよ。

(3節) そしてあなたは、南方<sup>183</sup>の森に対して言うのだ。ヤハウェの言葉を聞け。主なるヤハウェはこう言われる。見よ、(わたしは)あなたの上に火を点じようとしている。そしてそれ〔火〕はあなたの上で、すべてのみずみずしい木とすべての枯れ木とを食い尽くす。燃え盛る火は消えることなく、南方<sup>184</sup>から北へ向かうすべての表土<sup>185</sup>は、それによって焼かれよう。

(4節) そしてすべて肉なる者は、わたしヤハウェがそれ〔火〕を点火したことを見る。それは消えることがないであろう。

(5節) そしてわたしは言った。ああ、主なるヤハウェよ、彼らはわたしについて、彼はたとえ話をしているのではないか、と言っているのです。

<sup>178</sup> 別訳「として」。

<sup>179</sup> ヘブライ語「テマン」。

<sup>180</sup> ヘブライ語「ダロム」。

<sup>181</sup> ヘブライ語「ネゲブ」。

<sup>182</sup> 「野の」と訳した語は文法的に奇妙。この語を省略する写本が一つあり、削除ないし様々な読み替えの試みがされてきた。

<sup>183</sup> ヘブライ語「ネゲブ」。

<sup>184</sup> 前注と同じ。

<sup>185</sup> 直訳「顔」。

(6 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(7 節) 人の子よ、あなたの顔をエルサレムに向け、諸聖所<sup>186</sup>に向かって(涎を)垂らし、イスラエルの大地に向かって預言せよ。

(8 節) そしてあなたは、イスラエルの大地に対して言うのだ。ヤハウエはこう言われる。見よ、(わたしは)あなたに立ち向かい、わたしはわが剣をその鞘から抜く。そしてわたしはあなたから、義人と悪人<sup>187</sup>とを断ち切る。

(9 節) わたしがあるあなたから義人と悪人とを断ち切るため、そのゆえにわが剣はその鞘から出て、南方<sup>188</sup>から北のすべての肉なる者に立ち向かう。

(10 節) そしてすべての肉なる者は、わたしヤハウエがわが剣をその鞘から抜いたことを知るのだ。それ〔わが剣〕は再び(鞘に)戻らないであろう。

(11 節) そして汝、人の子よ、嘆息せよ。腰砕けと苦々しさの中で、あなたは彼らの目の前で嘆息するのだ。

(12 節) そして彼らはあなたに言うであろう。どうしてあなたは嘆息しているのか、と。そしてあなたは言うのだ。悲報のゆえ、それが来た<sup>189</sup>からだ、と。そして心はすべて溶け去り、両手はすべて垂れ下がり、霊はすべて弱り果て、すべての膝は水(とともに)行く<sup>190</sup>。見よ、それは来て、実現する<sup>191</sup>。主なるヤハウエの御告げ。

(13 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(14 節) 人の子よ、預言せよ。そしてあなたは言うのだ。主なるヤハウエはこう言われる、と。言え。

剣、研がれ、また磨かれた剣。

(15 節) まさに屠るためにそれ〔剣〕は研がれ、

それが稲妻となるためにそれは磨かれる<sup>192</sup>。

あるいはわれわれは喜ぶべきか、子の杖がすべての木を拒んでいるのだ<sup>193</sup>。

<sup>186</sup> 「わが聖所」, 「彼らの聖所」とする写本がそれぞれ複数存在する。

<sup>187</sup> 70 人訳では、断ち切られるのは「正しくない者と無法者」。

<sup>188</sup> ヘブライ語「ネゲブ」。

<sup>189</sup> 直訳「彼女は来る」。

<sup>190</sup> 別訳「行って水(になる?)」。意訳の試み「すべての膝は水を滴らせる(失禁)」「すべての膝は水ようになる(麻痺)」。7 章 17 節を参照。

<sup>191</sup> 直訳「彼女は来て、実現される」。

<sup>192</sup> テキストが壊れている。訳文中、「(稲妻と)なる」と訳した語はハーヤーの不定形と解したもの。ここまでの 70 人訳は、「あなたが犠牲(複数形)を殺すため、あなたは研げ。あなたが輝きとなるため、破壊へと準備を整えて殺せ」と訳している。

<sup>193</sup> この一文は文脈からはずれており、意味不明。タルグムの敷衍訳は、「ユダとベニヤミンの部族は、イスラエルの家が捕囚となって喜んだ。なぜなら彼らが木で作られた偶像に仕えていたからだ」と

(16 節) そして磨き、掌で握るため、それ〔剣〕は渡された<sup>194</sup>。

それは研がれた、剣が。そしてそれは磨かれた。

殺す者の手にそれを渡すため。

(17 節) 人の子よ、叫び、喚け。まことにそれ〔剣〕はわが民の上にある。

それはイスラエルの君主達すべての上に。

彼らはわが民とともに、剣によって（切り）捨てられる<sup>195</sup>。

それゆえ腿<sup>196</sup>を打て。

(18 節) まことに、それは試された。そして、もし拒んでいる杖もないなら、どうか<sup>197</sup>。主なるヤハウエの御告げ。

(19 節) そして汝、人の子よ、預言せよ。そして掌を掌に向かって打ちつけよ。

そして剣は倍にされ、第 3（の剣）は刺し貫かれた者達の剣。それは大いなる刺し貫かれた者の剣、（それは）彼らを取り囲む。

(20 節) 心を挫く<sup>198</sup>ため、そして躓きを増やす（ため）、

すべての彼らの門に、わたしは剣（による）殺戮<sup>199</sup>を与える。

ああ、それは稲妻となり、少しの屠りと<sup>200</sup>（なる）。

(21 節) 気を引き締めよ<sup>201</sup>。右へ向かえ。（顔を）向けよ。左へ向かえ。あなたの顔<sup>202</sup>はどこに向けられているか。

(22 節) そしてわたしもまた、わが掌をわが掌に向かって打ちつけ、わが憤りを鎮め

説明する。BHS はテキストが壊れているとして、「どのようにしてわたしはそれを戻そうか。あなたは杖を憎む、そしてすべての木々を」、あるいは「誰もそれを戻す者がいない。あなたは杖を憎む、そしてすべての木々を」という二つの読み替え案を示している。

<sup>194</sup> 直訳「そして…彼〔非人称〕は彼女〔剣〕を渡した」。

<sup>195</sup> この一文、意味不詳。70 人訳は「彼らは剣の下に寄留するであろう。それはわが民の中に起こる」と訳している。BHS は「捨てられる」と訳した語を読み替えて、「注がれた者達」という意味にする。この読み替え案に従った場合、訳文は「彼らは…（血を）注がれる」となる。

<sup>196</sup> 70 人訳は「あなたの手」。

<sup>197</sup> テキストが壊れており、意味不明。別訳「まことに、彼は試された。そして何と、（彼は）杖を拒んだか。いや、彼はそうはならないであろう」。70 人訳は、「なぜなら彼は、義とされたからである。そして、もし部族が退けられたなら、何となるだろうか」。

<sup>198</sup> 直訳「溶かす」。

<sup>199</sup> 「殺戮」という訳語は、BHS の読み替え案によるもの。MT はハパクス・レゴメノン（ここ以外にない語）で意味不詳。

<sup>200</sup> 訳文の「少しの屠りと」は MT の直訳だが、文脈上意味をなさない。BHS の読み替え案に従えば、この部分の訳文は「（殺戮へと）磨かれる」あるいは「磨かれ（殺戮となる）」。

<sup>201</sup> 訳文はグリーンバーグの注解書を参考にしたもの。K&B を参考にした別訳は、「後ろを振り返れ」。BDB は読み替えを提案する。BHS の読み替え案に従えば、「後方に従っておれ」となり、文脈上最も自然で、誤写の仕方としても可能性が高い。

<sup>202</sup> 訳文は直訳。別訳「あなたの刃」。

よう。

わたし、ヤハウエが語った。

(23 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(24 節) そして汝、人の子よ、あなたはバビロンの王の剣が来られるように二つの道を作れ。それら二つ(の道)は、一つの地から出ることになる。そして、標識を刻む町(に通じる)道の辻<sup>203</sup>に(標識を)刻む。

(25 節) あなたは、剣が来られるように、アンモンの子らのラッパへの道を作れ。そして堅固なエルサレムに至る、ユダへの(道)を。

(26 節) まことにバビロンの王が、占いをするため、道の分かれ目に、二つの道の辻<sup>204</sup>に立った。彼は、矢を揺らし、テラフィムに伺いを立て、肝臓を見る。

(27 節) 彼の右手には、破城機を配備し、破壊の中で口を開き、鬨の声を上げよとのエルサレムの占いがあった。門に対して破城機を配備し、土塁を積み上げ、包囲壁を築けよ(との占いが)。

(28 節) そして彼らの目には空しい占い<sup>205</sup>として(映るもの)があり、彼らにとって七つの誓い<sup>206</sup>であった。そして彼は捕らわれとするため、咎に言及する<sup>207</sup>。

(29 節) それゆえ主なるヤハウエはこう言われる。あなた達が、あなた達のすべての悪行によってあなた達の罪の数々が示され、あなた達の過ちの数々が顕わにされることによって、あなた達の咎に言及する<sup>208</sup>ゆえ、あなた達が言及される<sup>209</sup>ゆえ、あなた達は掌の中に捕らわれとなるであろう。

(30 節) そして汝、汚れた悪人<sup>210</sup>、イスラエルの君主よ。終わりの咎の時に、彼の日が到来する。

(31 節) 主なるヤハウエはこう言われる。ターバンを取り去り、冠を持ち上げよ。これは本来の姿ではない<sup>211</sup>。低きを高くし、高きを低くせよ。

(32 節) 廢墟、廢墟、廢墟、わたしがそれを(廢墟と)する。裁きを持つ者が到来し、

<sup>203</sup> 直訳「頭」。

<sup>204</sup> 前注と同じ。

<sup>205</sup> ケレーによる。

<sup>206</sup> 訳文中、「七つの誓い」と訳した部分は意味不明。「誓われた誓いの数々」「厳粛な誓い」等の有力な提案がある。

<sup>207</sup> 直訳「咎を思い出させる」。

<sup>208</sup> 直訳「あなた達の咎を思い出させる」。

<sup>209</sup> 直訳「あなた達が思い出される」。

<sup>210</sup> K&B を参照した別訳は「刺し貫かれた悪人」。

<sup>211</sup> 直訳「これはこれでない」。70 人訳は「これはそのようではないであろう」。

わたしが彼に（裁きを）与えるまでは、これも起こらない。

（33 節） そして汝、人の子よ、預言せよ。そしてあなたは言うのだ。主なるヤハウェは、アンモンの子らに対して、また彼らのそしりに対して、こう言われる、と。そしてあなたは言うのだ。剣、剣が、殺戮のために抜かれ、稲妻となって貪らせるために<sup>212</sup> 磨かれた。

（34 節） あなた<sup>213</sup> について空しい幻を視、あなたについて偽りの神託をする時、あなたを汚れた悪人達の首へと向かわせる。終わりの咎の時に、彼らの日が到来する。

（35 節） 彼女〔剣〕の鞘へと戻せ<sup>214</sup>。あなたが創造された場所で、あなたの発祥の地で、わたしはあなたを裁こう。

（36 節） そしてわたしはあなたの上に、わが憤怒を注ぐ。わが怒りの火をわたしはあなたの上に吹き付ける。そしてわたしは、粗暴な男達の手あなたを渡す。（それは）滅びの職人達である。

（37 節） あなた<sup>215</sup> は火の餌食となるであろう。あなたの血は国の只中にあるであろう。あなたは思い出されないであろう。まことに、わたしヤハウェが語った。

## [22 章]

（1 節） そしてヤハウェの言葉がわたしにあり、こう言われた。

（2 節） 汝、人の子よ。あなたは裁くのか。流血の町を裁くのか。ならばあなたは、すべての忌み嫌うべきことを彼女〔町〕に知らせるのだ。

（3 節） そしてあなたは言うのだ。主なるヤハウェはこう言われる。彼女〔町〕の時が到来するようにと、自分〔町〕の<sup>216</sup> 只中で血を注ぐ町よ。そして彼女は自分の上に偶像を作り、汚れた者となった。

（4 節） あなた<sup>217</sup> が注ぐあなたの血によってあなたは罪に定められ、あなたが作るあなたの偶像の数々によってあなたは汚れ、あなたはあなたの日々を引き寄せ、あなたは<sup>218</sup> あなたの年にまで至る<sup>219</sup>。それゆえわたしはあなたを諸国民に対してそしりとし、すべての

<sup>212</sup> 別訳「保つため」。

<sup>213</sup> これ以後、37 節まで「あなた」はほぼすべて女性形。「剣」への語りかけ。

<sup>214</sup> BHS の読み替え案に従えば、この一文は「あなたの鞘に戻れ」となる。

<sup>215</sup> 男性形。BHS は女性形への読み替えを提案する。ここを唯一の例外として、34-37 節の「あなた」はすべて女性形。

<sup>216</sup> 直訳「彼女の」。以下、同様。

<sup>217</sup> ここから 16 節まで、「あなた」はほぼすべて女性形。「町」つまりエルサレムに対する語りかけ。

<sup>218</sup> 「至る」の格は二人称単数男性形なので、ここの「あなた」のみ例外的に男性形。

<sup>219</sup> BHS の読み替え案に従うと、この部分は「そしてあなた（女性）はあなたの年の時を到来させる」となる。



国々に対して嘲りとする。

(5 節) あなたから近い者も遠い者も、名が汚れ、混乱の大きいあなたを嘲笑うであろう。

(6 節) 見よ、イスラエルの君主達は、血を流すため、それぞれ自分の腕をあなたの上に（振るう）。

(7 節) 彼らはあなたの間で父と母を軽んじ、あなたの只中で寄留者に対して抑圧をもって扱い、あなたの間で孤児と寡婦を虐げる。

(8 節) あなたはわが聖なる物の数々<sup>220</sup>を侮り、わが安息の日々を汚した。

(9 節) 血を流そうと、誹謗中傷の男達があなたの間にいる。そして彼らはあなたの間で、山々<sup>221</sup>の上で食らう。彼らはあなたの間で恥辱を行なう。

(10 節) あなたの只中で父の裸が顕わにされ<sup>222</sup>、あなたの間で彼らは不浄に汚れた（女）を辱しめる。

(11 節) そして（各自は<sup>223</sup>）それぞれその同胞の妻に忌み嫌うべきことを行ない、それぞれ自分の嫁<sup>224</sup>を恥辱によって汚し、それぞれ自分の姉妹、自分の父の娘をあなたの間で辱しめる。

(12 節) あなたの間で彼らは賄賂を取り、血を注ぐ。あなたは利息と利得を取り、あなたの同胞を抑圧によって搾取し、わたしを忘れた。主なるヤハウェの御告げ。

(13 節) 見よ、わたしはあなたが行なったあなたの搾取に対して、またあなたの只中にあるあなたの血に対して、わが掌を打つ。

(14 節) わたしがあなたを処遇する日々に対して、あなたの心は動じないか、あなたの両手は強くあるか。わたしヤハウェが語り、行なう。

(15 節) そしてわたしはあなたを諸国民の間に散らし、あなたを諸国の間にまき散らし、あなたからあなたの汚れを終わらせる。

(16 節) そしてあなたは、諸国民の目の前で、あなた（自身）によって汚される。そしてあなたは、わたしがヤハウェであることを知るのだ<sup>225</sup>。

(17 節) そしてヤハウェの言葉がわたしにあり、こう言われた。

<sup>220</sup> 別訳「わが諸聖所」。

<sup>221</sup> BHS の読み替え案は「血」。18 章 6 節を参照。

<sup>222</sup> 直訳「彼は父の裸を顕わにする」。しかし、ここでの主語は非人称と解する。

<sup>223</sup> この節の動詞の格は、すべて三人称単数男性形。主語は単語としては存在しない「各自」と解する。

<sup>224</sup> 直訳「彼の義理の娘」。つまり息子の嫁のこと。

<sup>225</sup> ここまで「町」に対する語りかけ。

(18 節) 人の子よ、イスラエルの家はわたしにとって、金滓<sup>226</sup>である。彼らのすべて、溶鉱炉の只中の銅や、錫や、鉄や、鉛は、銀の金滓である<sup>227</sup>。

(19 節) それゆえ、主なるヤハウェはこう言われる。あなた達<sup>228</sup>のすべてが金滓となったため、それゆえ見よ、(わたしは)あなた達をエルサレムの中へ集めようとしている。

(20 節) 銀や、銅や、鉄や、鉛や、錫を溶鉱炉の只中に集め、それ<sup>229</sup>に対して火を吹き付けて溶かす、そのようにわたしはわが怒りによって、またわが憤りによって、あなた達を集め、置き<sup>230</sup>、溶かす。

(21 節) そしてわたしはあなた達を集め、あなた達に対してわが怒りの火でもって吹き付ける。そしてあなた達は、その<sup>231</sup>只中で溶かされる。

(22 節) 銀が溶鉱炉の只中で溶融するように、そのようにあなた達はその<sup>232</sup>只中で溶かされる。そしてあなた達は、わたしヤハウェがわが憤りをあなた達の上に注いだことを知るのだ。

(23 節) そしてヤハウェの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(24 節) 人の子よ、彼女<sup>233</sup>に言え。あなたこそは潔められない土地。憤怒の日にはそこに雨は降らない。

(25 節) 獅子が吼え、獲物を引き裂くように、彼女の只中に彼女の預言者達の陰謀<sup>234</sup>(がある)。彼らは命を食らい、富と宝を取り、彼女の寡婦達を彼女の只中に増やした。

(26 節) 彼女の祭司達はわが律法を不当に扱い、わが聖なる物の数々<sup>235</sup>を汚し、聖と俗の間を区別せず、不浄と浄の間(の区別)を教えなかった。そして彼らはわが安息の日々からその目を覆い、わたしは彼らの只中で汚された。

(27 節) 彼女の中心にいる彼女の君主達は、獲物を引き裂く狼のように、血を注ぎ、

<sup>226</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>227</sup> この一文を BHS の提案に従って修正すると、「彼らのすべて、溶鉱炉の只中の銀や、銅や、錫や、鉄や、鉛は、金滓である」という訳文になる。その方が文脈には合う。

<sup>228</sup> ここから審判の対象は、男性形の「あなた達」に変わる。

<sup>229</sup> 男性単数形。おそらく「溶鉱炉」を指すが、文脈から金属すべてを指す集合的単数と解することも可能。

<sup>230</sup> BHS の修正案は、「そしてわたしは吹き付け」あるいは「そしてわたしは吹き付けさせ」。

<sup>231</sup> 直訳「彼女の」。「火」を指す。あるいは「町」を暗示するか。

<sup>232</sup> 前注と同じ。

<sup>233</sup> 「町」を指す。但し文法的には「土地」とすることも可能。いずれにしてもエルサレムを意味する。以下、同じ。

<sup>234</sup> BHS の修正案に従うと、「預言者たちの陰謀」は「君主達」となる。70 人訳は「指導者達」で、この修正案と対応する。

<sup>235</sup> 別訳「わが諸聖所」。

命を滅ぼそうとする。(それは,) 搾取を行なうためである。

(28 節) そして彼女の預言者達は, 空しい幻を視, 彼らに対して偽りの神託をしながら, 彼らに対して漆喰で上塗りをし, 主なるヤハウエはこう言われる, と言っている。しかしヤハウエは語っていない。

(29 節) 国の民は抑圧を行ない, 強奪を行ない, 苦しむ者と貧しい者を虐げ, 寄留者を不当に抑圧する。

(30 節) わたしは, この国のため, (わたしが) 彼女〔この国〕を滅ぼさないように, 城壁を築き, わたしの前で (城壁の) 破れの上に立つ男を彼らのうちに求めたが, 見出さなかった。

(31 節) そしてわたしは彼らのうちにわが憤怒を注ぐ。わが怒りの火でわたしは彼らを滅ぼし尽くす。わたしは彼らの道 (の報い) を彼らの頭上に与える。主なるヤハウエの御告げ。

### [23 章]

(1 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり, こう言われた。

(2 節) 人の子よ, 2 人の女が, 1 人の母親の娘達がいた。

(3 節) そして彼女達はエジプトで姦淫した。彼女達はその若い頃に姦淫した。そこで彼女達の乳房は握られ, そこで彼らは彼女達の処女の乳首を弄んだ。

(4 節) そして彼女達の名は, 姉がオホラ, またその妹がオホリバで, 彼女達はわたしのものとなり, 息子達と娘達を産んだ, そして彼女達の名は, オホラがサマリア, またオホリバがエルサレム (である)。

(5 節) そしてオホラはわたしをよそに姦淫し, 彼女の愛人達に, 近くの者達<sup>236</sup>, アッシリアに欲情した。

(6 節) 紫を身にまとった者達, 総督達や知事達, 彼らは皆, 押し出しのいい若い男達 (であった)。(彼らは) 馬に乗った騎士達だった。

(7 節) そして彼女は, その姦淫を彼らに与えた。彼らは皆, アッシリアの子らの選良 (であった)。(そして彼女は, 自分が欲情するすべてによって, 彼らの偶像のすべてによって, 自らを汚した)。

(8 節) そして彼女は, エジプト以来のその姦淫を捨てなかった。なぜなら彼らは, 若

<sup>236</sup> 意味不詳。別訳「戦士」等。

い時の彼女と寝たからであり、彼らが彼女の処女の乳首を弄んだからである。そして彼らは、彼女に対して彼らの姦淫を注いだのである。

(9 節) それゆえわたしは彼女を、彼女の愛人達の手、彼女が欲情したアッシリアの子らの手に渡した。

(10 節) 彼らは彼女の裸を躡わにし、彼女の息子達と彼女の娘達を取り、彼女を剣で殺した。そして彼女は女達にとって(汚)名<sup>237</sup>となり、彼らは彼女への裁きを下したのだ。

(11 節) そして彼女の妹オホリバは見て、その欲情を彼女よりひどいものとし<sup>238</sup>、自分の姦淫をその姉の淫行以上(にひどいもの)とした。

(12 節) 彼女は、アッシリアの子らに欲情した。(彼らは)総督達や知事達、近くの者達<sup>239</sup>、正装をまとった者達、馬に乗った騎士達(であった)。彼らは皆、押し出しのいい若い男達(であった)。

(13 節) そしてわたしは、彼女が自らを汚すのを見た。彼女達2人には一つの道<sup>240</sup>。

(14 節) そして彼女はその姦淫に増し加え、壁に彫られた男達、朱色で刻まれたカルデア人<sup>241</sup>の像<sup>242</sup>の数々を見た。

(15 節) (彼らは)その腰に帯を締め、その頭にターバンを垂らし、彼らは皆士官<sup>243</sup>(のような)有様、その出生の地がカルデアの、バビロンの子らの姿(だった)。

(16 節) そして彼女はその目に映った彼らに対して欲情を抱き、使者達を彼らに、カルデアへと遣わした。

(17 節) そしてバビロンの子らは彼女の許に入り、愛の臥所に着き、姦淫によって彼女を汚した。そして彼女は彼らによって汚れ、彼女の心は彼らから離れた。

(18 節) そして彼女はその姦淫を躡わにし、その裸を躡わにした。そしてわが心が彼女の姉から離れたように、わが心は彼女から離れた。

(19 節) そして彼女は、その姦淫を増し加えた。それは、彼女がエジプトの地で姦淫した彼女の若い日々を思い出すためであった<sup>244</sup>。

<sup>237</sup> 70 人訳「物笑いの種」。

<sup>238</sup> 直訳「墮落させ」。

<sup>239</sup> 5 節の注を参照。ここは特に「戦士達」と訳すと文脈的に都合がよくなる。

<sup>240</sup> この一文を意訳すれば、「彼女達は2人とも、一つの(同じ)道を歩んだ」ということ。

<sup>241</sup> ケレーによる。

<sup>242</sup> 直訳「形」。

<sup>243</sup> 直訳「第3の人」。戦車で役割の名。御者の横に立ち、戦車が向きを変える際に戦士の攻撃を助ける任務。

<sup>244</sup> 70 人訳はこの節をすべて二人称単数形で、「そしてあなたは、エジプトであなたが姦淫したあなたの若い日々を思い出すため、あなたの姦淫を増し加えた」と訳す。

(20 節) そして彼女は、彼らの情婦となることへと欲情を抱いた<sup>245</sup>。彼らの一物<sup>246</sup>は雄ロバ（並み）の一物で、彼らの精力は馬（並み）の絶倫（である）。

(21 節) そしてあなたは、あなたの若い乳房のため、エジプトからあなたの乳首を弄んだ時<sup>247</sup>（の）、あなたの若い（頃の）恥辱を追い求めた。

(22 節) それゆえオホリバよ、主なるヤハウエはこう言われる。見よ、（わたしは）あなたの心がそこから離れたあなたの愛人達をあなたに向かって立ち上がらせる。そしてわたしは、周囲からあなたに向かって彼らを来たらせる。

(23 節) バビロンの子らとすべてのカルデア人、ペコドとショアとコア、彼らとともに<sup>248</sup>すべてのアッシリアの子ら、押し出しのいい若い男達と総督達と知事達、彼らのすべて、士官達と召喚された者達、馬に乗った者達、彼らのすべて（を）。

(24 節) 軍馬<sup>249</sup>、戦車、そして車両が、諸国民の軍勢によってあなたに向かって到来する。彼らは大盾と小楯と兜を着けて、周りであなたに立ち向かう。そしてわたしは、彼らの前で裁きを下し、彼らは彼らの戒律によってあなたを裁く。

(25 節) そしてわたしはわが憤怒をあなたに下し、彼らはあなたを憤りをもって扱う。そして彼らはあなたの鼻とあなたの両耳を取り去り、あなたに残された者<sup>250</sup>は剣によって倒れよう。彼らはあなたの息子達とあなたの娘達を取り、あなたに残された者<sup>251</sup>は火によって食い尽くされよう。

(26 節) そしてわたしはあなたの衣装を剥ぎ取り、あなたの美しい（装身）具を取り去る。

(27 節) そしてわたしはあなたの恥辱をあなたから、そしてあなたの淫行をエジプトの地から終わらせる。そしてあなたはあなたの目を彼らに置かず、再びエジプトを思い出

<sup>245</sup> 70 人訳はここも二人称単数形で、「そしてあなたはカルデア人達に対して関心を寄せた」と訳している。

<sup>246</sup> 直訳「肉」。16 章 26 節を参照。

<sup>247</sup> この部分を BHS の修正案に従って訳すと、「エジプトがあなたの乳首を弄んだ時」、あるいは「エジプトであなたの乳首が弄ばれた時」となる。

<sup>248</sup> 「彼らとともに」という訳文は、BHS の提案に従って読み替えたもの。MT を直訳すると「彼らを」となり、意味をなさない。

<sup>249</sup> この語は意味不明。10 の写本の「胸」という語は文脈に全く合わない。70 人訳は「北から」と訳し、ツィンマーリはこの訳を採用する。グリーンバーグはタルグムに従って、「武装した」と訳す。BHS の読み替え案に従えば「大勢の」となり、文脈に合致するが、このような誤写は考えにくい。「軍馬」という訳語は、「胸」に当たる子音に読み替えた上で、エレミヤ書 47 章 3 節との呼応関係その他から推測したもの。

<sup>250</sup> 直訳「あなたの後」。子孫の意味とも取れる。70 人訳は「あなたの残りの者」。

<sup>251</sup> 前注と同じ。

すことはないであろう。

(28 節) まことに主なるヤハウェはこう言われる。見よ、(わたしは) あなたをあなたが憎む者達の手、あなたの心がそこから離れた者達の手へ渡そうとしている。

(29 節) そして彼らは、あなたを憎しみをもって扱い、あなたの労苦の実りのすべてを取り去り、あなたを裸で無一物<sup>252</sup>のまま捨て去る。そしてあなたの淫行の裸が顕わにされる。そしてあなたの恥辱とあなたの姦淫が。

(30 節) あなたが諸国民の後を(追い求めて)姦淫をしたゆえ、彼らの偶像供によってあなたが自らを汚したゆえ、これらのことがあなたに対して為されよう<sup>253</sup>。

(31 節) あなたはあなたの姉の道を歩んだ。そしてわたしは彼女の杯をあなたの手に渡す。

(32 節) 主なるヤハウェはこう言われる。

あなたはあなたの姉の杯を飲むであろう、深くて広い(杯を)。

それは物笑いと嘲りとなり、なみなみと満たす(杯だ)。

(33 節) あなた<sup>254</sup>は酔いと悲しみに満たされるであろう。

恐怖と荒廢の杯、あなたの姉サマリアの杯。

(34 節) そしてあなたはそれを飲み、飲み乾し、その器を(嘔み)砕き、あなた(自身)の乳房を切り裂くのだ。まことにわたしが語る。主なるヤハウェの御告げ。

(35 節) それゆえ主なるヤハウェはこう言われる。あなたがわたしを忘れ、わたしをあなたの背後に投げ捨てたがゆえに、あなたはまたあなたの恥辱とあなたの姦淫(の責任)をも負え。

(36 節) そしてヤハウェはわたしに言った。人の子よ、あなたはオホラとオホリバを裁こうとするのか。では彼女達、その忌み嫌うべきことの数々を告げよ。

(37 節) まことに彼女達は姦淫を行ない、彼女達の両手には血があり、彼女達はその偶像供と姦淫を行なった。そしてまた、彼女達がわたしのために産んだ彼女達の息子達を

<sup>252</sup> あるいは「丸裸」。直訳「裸で裸」。16章7節を参照。

<sup>253</sup> 「為されよう」という訳文は、BHSの提案に沿って冒頭の不定形の動詞に少し修正を加え、分詞受動態と解したもの。但しこれを完了形と解するなら、29節の最後の一文を主語として「これらのことをあなたに対して為した」と訳すこともできる。なお、MTを直訳すると「為すこと」となり、意味をなさない。

<sup>254</sup> BHSの提案に従って「満たされる」と訳した動詞に若干の修正を加えると、主語は「彼女」(前節の「杯」)ということになる。

も、(彼女達<sup>255</sup> は) 彼らのために食物として献じた<sup>256</sup>。

(38 節) 更に(彼女達<sup>257</sup> は)、わたしにこのことを行なった。(彼女達は<sup>258</sup>) その日わが聖所を汚し、わが安息の日々を汚したのだ。

(39 節) そして彼らが<sup>259</sup> 彼らの息子を彼らの偶像供のために屠った時、その日彼らはわが聖所に入ってそれ〔聖所〕を汚したのである。そして見よ、彼らはわが家の只中でこのようなことを行なったのだ。

(40 節) そして更に彼女達は、男達に使いを出した。(彼らは) 遠くから来ようとしていた。彼らに使いが遣わされると、見よ、彼らはやって来た。彼らのために、あなたは(体を) 洗い、あなたの目を彩り、装身具で飾り立てた。

(41 節) そしてあなたは豪華な寝椅子に坐り、その前には食卓が用意され、あなたはその上にわが香とわが油を置いた。

(42 節) そして群衆の声、彼女<sup>260</sup> の中で安心、そして男達の許へ多くの男達によって、荒れ野から酔いどれ達<sup>261</sup> が連れて来られた<sup>262</sup>。そして彼らは彼女達の上に腕輪を、彼女達の頭には麗しい冠を贈った。

(43 節) そしてわたしは言った。色衰え(ても) 淫行。今彼らは姦淫を行ない<sup>263</sup>、そして彼女は<sup>264</sup>。

(44 節) そして彼<sup>265</sup> は、彼女の許へと入って行った。淫売女の許へと入って行くように、彼らは恥辱の女達、オホラとオホリバの許へと入って行った。

<sup>255</sup> あるいは「彼ら」。

<sup>256</sup> 直訳「通らせた」。火をくぐらせることによって子を焼いて献げ物とすることを暗示する。16 章 21 節、20 章 26、31 節を参照。

<sup>257</sup> あるいは「彼ら」。

<sup>258</sup> 前注と同じ。

<sup>259</sup> この節の人称は男性複数形。しかし女性複数形から男性複数形への人称の変化は、38 節(あるいは 37 節後半) から始まっている可能性もある。

<sup>260</sup> 「寝椅子」を指すか。

<sup>261</sup> ケレーによる。

<sup>262</sup> この一文は意味不明。意識の試み「そして安易な群衆の声がそこ〔寝椅子〕に響き、大勢の人間から成る男達に、荒れ野からやって来た酔いどれ供が加わった」。70 人訳はこの部分を、「そして彼らは一斉に声を上げた。そして荒れ野からやって来た人々の群衆から成る男達の許へ」と訳している。

<sup>263</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>264</sup> テキストがこわれており、意味不明。70 人訳はこの節を、「そしてわたしは言った。これらにおいて彼らは淫行を為さない。そして姦淫の所業を。そして彼女は姦淫を行なった」と訳しているが、いずれにせよ意味不明。敢えて意識を試みるなら、「色衰えても淫行。今も姦淫」とでもする以外にない。

<sup>265</sup> この一文の動詞は男性単数形で、訳文は MT 通りだが、文脈に合致しない。二つの写本と古代訳は複数形、BHS も複数形への修正を提案する。それに従えば、主語は「彼ら」。

(45 節) そして義人である人々、彼らこそが、姦淫をする女達への裁き、血を流す女達への裁きで、彼女達<sup>266</sup>を裁く。なぜなら彼女達は姦淫をする女達であり、彼女達の手には血が付着しているからだ。

(46 節) まことに主なるヤハウエはこう言われる。彼ら<sup>267</sup>に対して集会<sup>268</sup>を召集せよ。そして彼女達を恐怖へと、そして戦利品へと引き渡すのだ<sup>269</sup>。

(47 節) そして彼らは集会で、彼女達に向かって石を投げつけ、彼女達を彼らの剣で切り刻む。彼らの<sup>270</sup>息子達と彼らの<sup>271</sup>娘達を彼らは殺し、彼女達の家々を火で燃やすであろう。

(48 節) そしてわたしは、この地から恥辱を終わらせる。そしてすべての女達は矯正され、彼女達はあなた達の恥辱のようなことは行なわないであろう。

(49 節) そして彼らは<sup>272</sup>あなた達の恥辱をあなた達(自身)に帰し、あなた達はあなた達の偶像供の罪の数々を負うであろう。そしてあなた達は、わたしが主なるヤハウエであることを知るのだ。

## [24 章]

(1 節) そして第 9 年、第 10 (の月)、その月の 10 (日)、ヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(2 節) 人の子よ、あなたはこの日付<sup>273</sup>を、まさにこの日を書き記せ。バビロンの王はまさにこの日、エルサレムに対して攻囲をかけた<sup>274</sup>。

(3 節) そして反逆の家に対してたとえ話をせよ。そしてあなたは彼らに言うのだ。主なるヤハウエはこう言われる。用意せよ、鍋<sup>275</sup>を用意せよ。そしてまた、その上に水を注げ。

<sup>266</sup> レニングラード写本は男性複数形だが、いくつかの写本は女性複数形。ここは「女達」を指すと考えないと文脈上意味をなさないで、訳文では女性複数形と解した。

<sup>267</sup> 多くの写本、印刷本は、「彼女達」。その方が文脈には合う。

<sup>268</sup> 別訳「軍勢」。

<sup>269</sup> この節の二つの不定形の動詞は、実質的に命令形として機能していると解する。

<sup>270</sup> 訳文は MT に従ったものだが、「彼女達の」と読み替えないと、文脈上意味をなさない。

<sup>271</sup> 前注と同じ。

<sup>272</sup> 二つの写本は冒頭の動詞を 1 人称にしている。それに従えば訳文は、「そしてわたしは…帰し」となり、前節と整合するが、47 節と関連させるなら MT のままで辻褄は合う。あるいは、非人称的に理解するべきか。

<sup>273</sup> 直訳「この日の名」。

<sup>274</sup> 直訳「もたれかかった」。

<sup>275</sup> 「鍋」は男性形、女性形、どちらでも使われるが、以下では基本的に女性形扱いされている。



(4 節) その肉片をそれ〔鍋〕に集め入れよ、腿肉と肩肉、すべての良い肉片を。最良の骨で満たせ。

(5 節) 群れの最良(の羊)を取り、更にその<sup>276</sup>下に骨<sup>277</sup>も積み重ねよ。それが煮えるまで<sup>278</sup>煮立てよ。あなた達はその〔鍋の〕中心で、その〔鍋の〕骨も煮込め。

(6 節) それゆえ主なるヤハウェはこう言われる。災いあれ<sup>279</sup>、流血の町、鏽の付いた鍋よ。そしてその鏽はそこ〔鍋〕から(離れて)行かない。その肉片を、その肉片を、そこから取り出せ<sup>280</sup>。くじはその〔鍋の〕上には落ちない。

(7 節) まことに、彼女〔町(=「鍋」)〕の血は彼女の只中にある。彼女はそれ<sup>281</sup>を岩の表面に流した。彼女はそれを地に注ぎそれを塵で覆う、ということはしなかった。

(8 節) 憤りを掻き立て復讐を果たすため、わたしは彼女〔町〕の血を岩の表面にこぼし、覆われることのないようにした。

(9 節) それゆえ主なるヤハウェはこう言われる。災いあれ<sup>282</sup>、流血の町よ。わたしもまた(薪の)積み置きを大きくしよう。

(10 節) 木々を多くせよ。火をつけよ。肉をよく煮込め。そして調味料を合わせるのだ。そうすれば骨は、焼け焦がされるであろう。

(11 節) そしてそれ〔鍋〕<sup>283</sup>を空のまま、その炭の上にとどまらせよ。それは、それが熱くなり、その青銅が焼け、その汚れがその只中で溶かされ、その鏽が(燃え)尽きるためである。

(12 節) それは骨折り(によって)疲れさせた<sup>284</sup>。そしてその大きな鏽は、そこから離れて行くことはないであろう、火によってもその鏽は。

(13 節) あなたの汚れによって、恥辱。わたしがあなたを清めたのにあなたが清くならなかったゆえ、あなたの汚れから再びあなたが清くなることはないであろう、わたしが

<sup>276</sup> 直訳「彼女の」。文脈の直接の流れからは「群れ」を指すと解する他ないが、前後の文脈からはむしろ「鍋」を指すと考えた方が自然。

<sup>277</sup> BHS の読み替え案に従えば、「木々」。この場合、「鍋の下に薪を敷き」の意味になり、より自然になる。

<sup>278</sup> 直訳「彼女の沸騰を」。「彼女」は鍋を指す。

<sup>279</sup> ヘブライ語「オーイ」。

<sup>280</sup> 訳文は意識。MT の直訳「彼女を取り出せ」は、「肉片」が男性形なので辻褄が合わない。70 人訳は「彼は一部分ずつ取り出した」。

<sup>281</sup> 男性形。「血」を指す。

<sup>282</sup> ヘブライ語「オーイ」。

<sup>283</sup> 直訳「彼女」。10-12 節はイメージが「町」から「鍋」に替わるため、「それ」と訳す。

<sup>284</sup> この一文(2 語)は意味不明。おそらく誤写。しかし動詞の格は女性単数形なので、文脈からは主語は「鍋」ということになる。

あなたに対するわが憤りを鎮めるまでは。

(14 節) わたしヤハウエが語る。それは来て<sup>285</sup>、わたしが行なう。わたしは見過ごさず、憐れまず、悔いることもない。あなたの道とあなたの悪行に従って、彼らはあなたを裁く。主なるヤハウエの御告げ。<sup>286</sup>

(15 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(16 節) 人の子よ、見よ、(わたしは) あなたの目の楽しみを一撃で取り上げようとしている。だからあなたは嘆いてはならず、泣いてはならず、あなたの涙が出ないようにせよ。

(17 節) 黙して呻吟せよ、死んだ者達 (のために) 喪に服するな<sup>287</sup>。あなたの上にああなたのターバンを巻き、あなたの両足にああなたのサンダルを履くのだ。そしてあなたは、口髭を覆わず、男達のパン<sup>288</sup> を食らうな。

(18 節) そしてわたしはその朝に民に語り、わたしの妻はその夕に死んだ。そしてわたしは、わたしが命じられたとおりにその (翌) 朝に行なった。

(19 節) そして民はわたしに言った。あなたが行なっているこれらのことは、われわれにとって何なのか、あなたはわれわれに知らせないのか。

(20 節) そしてわたしは彼らに言った。ヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われたのだ。

(21 節) イスラエルの家に言え。主なるヤハウエはこう言われる。見よ、(わたしは) わが聖所、あなた達の力の誇り、あなた達の目の楽しみ、そしてあなた達の魂の憧れを、汚そうとしている。そしてあなた達が (見) 捨てたあなた達の息子達とあなた達の娘達は、剣によって倒れるであろう。

(22 節) そしてあなた達は、わたしが行なった通りに行なうのだ。あなた達は、口髭を覆わず、男達のパン<sup>289</sup> を食らうな。

(23 節) そしてあなた達の頭にはあなた達のターバン、そしてあなた達の足にはあな

<sup>285</sup> 直訳「彼女は来る」。70 人訳は「それは来るであろう」。

<sup>286</sup> 70 人訳はこの後に、MT にはない「それゆえわたしはあなたを、あなたの血に従って、またあなたの考えに従って裁く。不浄、有名、そして多くの挑発」が続く。あるいは現在は存在しないヘブライ語の原本の訳か。

<sup>287</sup> 直訳「呻吟せよ、黙せ、死者達、喪に服するな」。訳文は、伝統的な解釈法に従って、「死者達」を後ろと結びつけたもの。前と結びつけるなら、「死者のような沈黙 (の中で) 呻吟せよ、喪に服するな」等の訳文が考えられる。70 人訳は「血と腰と悲しみの嘆きである」となっており、MT とは異なるヘブライ語原本から訳している可能性がある。

<sup>288</sup> 意識すれば「他人のパン」。

<sup>289</sup> 前注と同じ。

た達のサンダル。あなた達は嘆いてはならず、泣いてはならない。そしてあなた達は、あなた達の咎の数々によって衰え果て、それぞれ互いに呻くのだ。

(24 節) そしてエゼキエルは、あなた達にとって前触れとなる。あなた達は、すべて彼が行なったように行なうのだ。そしてそれが到来する時<sup>290</sup>、あなた達はわたしが主なるヤハウェであることを知る。

(25 節) そして汝、人の子よ。見よ<sup>291</sup>、わたしが彼らから彼らの砦、麗しい喜びを、彼らの目の楽しみを、そして彼らの魂の望みを、彼らの息子達と彼らの娘達を取り去る日、

(26 節) その日、逃れた者があなたの許に来て、耳に入れるだろう。

(27 節) その日、あなたの口は逃れた者 (の到来) とともに<sup>292</sup> 開かれ、あなたは語り、もはや口がきけなくはない。そしてあなたは彼らにとって前触れとなり、彼らはわたしがヤハウェであることを知る。

## 主要参考文献

### 【一次文献と辞書】

1. マソラ本文 (略号 MT) の底本として用いたのは、(ed.) K. Elliger et W. Rudolph, *Biblia Hebraica Stuttgartensia*, Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, 1977. (略語 BHS)  
但し、(ed.) K. Elliger et W. Rudolph, *Biblia Hebraica Leningradensia*. Hendrickson, 2001. (略語 BHL) も必要に応じて参考にした。
2. 古代訳の 70 人訳 (略号 LXX) とウルガタ (略号 V) は、それぞれ以下の校訂本を用いた。  
(ed.) Alfred Rahlfs, *Septuaginta*, Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, 1979.  
(ed.) Roger Gryson et al., *Biblia Sacra Vulgata*, Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, Vierte, verbesserte Aufl. 1994.
3. 主な使用辞書は、以下の通り。  
*The New Brown, Driver, Briggs, Gesenius Hebrew and English Lexicon*, Peabody: Hendrickson, 1979. (略語 BDB)  
(ed.) Ludwig Koehler & Walter Baumgartner, *The Hebrew and Aramic Lexicon of the Old Testament (vol.1&2)*. Brill, 2001, (略語 K&B)

<sup>290</sup> 直訳「彼女が来る時」。14 節, 21 章 12 節を参照。

<sup>291</sup> 直訳「そうではないか」。相手に肯定の回答を促す疑問詞。注意を促す意味なので、このように訳した。

<sup>292</sup> 別訳「に対して」。70 人訳もそのように訳している。

(ed.) H.G. Lidell and R. Scott, *Greek-English Lexicon*, Clarendon Press : Oxford, 1996.

(ed.) Edwin Hatch and Henry A. Redpath, *A Concordance to the Septuagint, second edition*. Baker, 1998.

(ed.) T. Muraoka, *A Greek-English Lexicon of the Septuagint*. Peeters, 2009.

(ed.) P.G. W. Glare, *Oxford Latin Dictionary, second edition (vol.1&2)*. Oxford University Press, 2012.

【二次文献】

Allen, Leslie C., *Ezekiel 1-19*, Word Biblical Commentary Vol. 28, Dallas : Word Books, 1994.

Allen, Leslie C., *Ezekiel 20-48*, Word Biblical Commentary Vol. 29, Dallas : WordBooks, 1990.

ブレンキンソップ, J. (金井美彦訳) 『エゼキエル書』 日本基督教団出版局, 1993年。

Block, Daniel I., *The book of Ezekiel. Chapters 1-24*. The New International Commentary, Grand Rapids : Wm.B.Eerdmans Publishing Co., 1997.

ディクストラ, M. (池永倫明訳) 『コンパクト聖書注解エゼキエル書 I』 教文館, 2004年。

アイヒロット, W. (川中子義勝訳) 『エゼキエル書上 一-一八章』 (ATD・NTD 聖書註解刊行会, 1998年)。

アイヒロット, W. (安積鋭二・泉治典訳) 『エゼキエル書下 一九-四八章』 (ATD・NTD 聖書註解刊行会, 1995年)。

Greenberg, Moshe, *Ezekiel 1-20*, Anchor Bible, Doubleday, 1983.

Greenberg, Moshe, *Ezekiel 21-37*, Anchor Bible, Doubleday, 1997.

樋口進「エゼキエル書」(序論, 1-39章), 高橋虔/シュナイダー, B. 監修『新共同訳 旧約聖書注解 II』(日本基督教団出版局, 1994年)所収。

関根正雄『新訳 旧約聖書 第三卷 預言書』教文館, 1994年。

月本昭男『旧約聖書 IX エゼキエル書』岩波書店, 1999年。

Zimmerli, Walther, *A Commentary on the book of the Prophet Ezekiel, Chapters 1-24*, trans., by Ronald E. Clements, Hermeneia, Philadelphia : Fortress Press, 1979. [*Ezekiel 1*, *Biblicher Kommentar Altes Testament, Band XIII/1*, Waningen : Neukirchen-Vluyn, 1969.]